

栃木県埋蔵文化財調査報告第329集

西 刑 部 西 原 遺 跡

—緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2010. 3

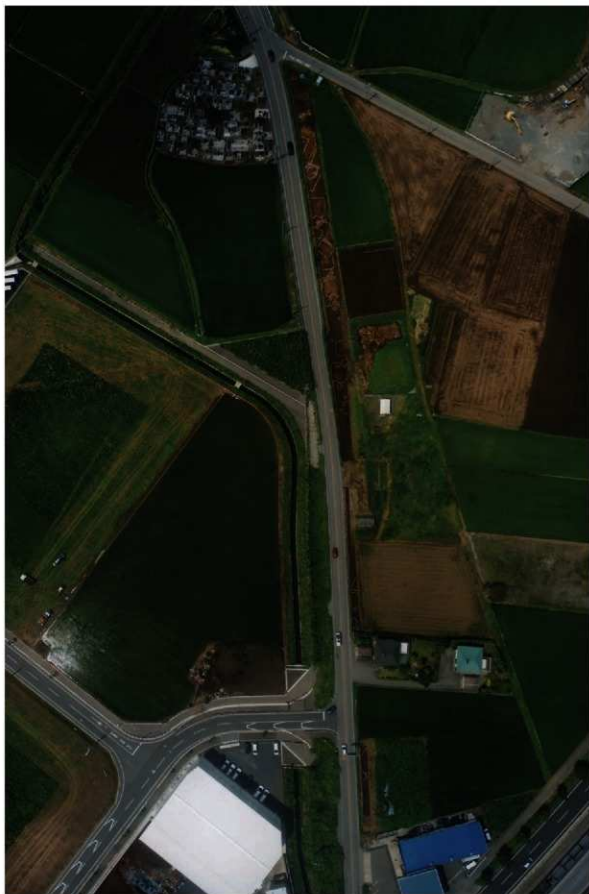
栃 木 県 教 育 委 員 会
財)とちぎ生涯学習文化財団

西 刑 部 西 原 遺 跡

—緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2010. 3

栃 木 県 教 育 委 員 会
(財)とちぎ生涯学習文化財団



航空写真（上が北）



SK-35 出土遺物

出土状況



作業風景（南から）

序

西刑部西原遺跡は、栃木県の中央部に位置する宇都宮市に所在します。この地域は、なだらかに広がる低台地と肥沃な沖積地に恵まれているため、磯岡北遺跡、立野遺跡、権現山遺跡、砂田姥沼遺跡などの原始・古代の集落跡と、東谷古墳群・磯岡北古墳群・琴平塚古墳群をはじめとする多くの古墳群が所在します。また、近年は「インターパーク宇都宮南」として土地区画整理事業が行われ、活気のある住宅・商業地と変わりつつあります。

このたび、「インターパーク宇都宮南」の東を南北に走る一般県道二宮宇都宮線の改良工事に先立ち、遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を実施いたしました。本報告書は、その成果をまとめたものです。

本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多くのご協力をいただきました宇都宮市教育委員会、栃木県県土整備部をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

栃木県教育委員会

教育長 須藤 稔

例言

1. 本書は、栃木県宇都宮市西刑部町に所在する西刑部西原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う事前調査である。
3. 調査は、栃木県県土整備部道路整備課の委託事業であり、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導により、財団法人とちぎ生涯学習文化財団が実施したものである。
4. 本遺跡の現地調査及び整理報告の期間は下記の通りである。

発掘調査

期間 平成21年5月1日～平成21年7月31日

担当者 調査部調査第二担当 係長 芹澤清八

調査部調査第二担当 係長 植木茂雄

整理作業・報告書作成作業

期間 平成21年8月1日～平成22年3月30日

担当者 調査部調査第二担当 係長 植木茂雄

5. 本書の執筆・編集は植木が行った。
6. 国家座標の移設及び遺構平面図作図は株式会社ニッコーに委託した。
7. 航空写真撮影は中央航業株式会社に委託し、遺物の写真撮影は株式会社下野印刷が撮影した。遺構の写真撮影は現場担当者が行った。
8. 発掘調査・報告書作成にあたっては、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導を受けるとともに、宇都宮市教育委員会、竹澤謙、齋藤進、大瀧貴史（敬称略）からご指導・ご協力を賜った。
9. 発掘調査には次の者の御協力を得た。

磯崎恵子・笠野大・児玉祐美子・佐藤隆広・佐藤利義・篠原信子・高島典子・高橋洋子・高松米子・寺崎千恵美・林勝彦・藤原美枝・森田幸江・矢島真由美・湯田仁淑・吉葉里美

10. 整理・報告書作成には次の者の御協力を得た。

吉田優一・堀山裕子・天野崇弘・橋本晶江

11. 遺物の復元及び実測は吉田優一・堀山裕子・天野崇弘・橋本晶江が行った。遺構平面図清図は、デジタルトレースとし、堀山裕子が担当した。遺物実測図の清図は吉田優一・天野崇弘・橋本晶江が行った。
12. 本遺跡の調査概要については埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されるが、本書をもって正式報告とする。
13. 本遺跡の出土遺物・資料類は、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターに保管している。

凡例

遺跡

1. 遺跡の略号はUT-NS土（UTSUNOMIYA-NISHIOSAKABENISHIHARA 県土整備部）。

遺構

1. 遺構の略号は独立行政法人奈良文化財研究所が用いるSA（塙・欄干）・SB（建物）・SC（回廊）・SD（溝）・SE（井戸）・SF（道路）・SI（住居）・SK（土坑）・SX（性格不明）・SZ（墳墓）に準拠する。
2. 遺構の番号は遺構の種類にかかわらず調査した順番に付した。報告書においてもこれを踏襲している。

また、堅穴住居跡に付属する柱穴や貯蔵穴は遺構毎に「P1」「P2…」と発番したものもある。

3. SXについては本文中では円形周溝遺構として記載している。
4. 遺構実測図中の方位は世界測地形に基づいている。
5. 遺構実測図の縮尺は原則として1/80とし、それ以外の図面の縮尺は挿図中にスケールで表記した。
6. セクション図に表記してある断面水準は海拔標高である。
7. 土層説明のなかで今市軽石は今市P、七本桜軽石は七本桜Pと記載した。

遺物

1. 実測図の縮尺は、土器1/4・鉄製品1/2・玉類1/2・石製品1/4・縄文土器1/3を原則とし、挿図中にスケールを示した。
2. 挿図中の遺物番号は、遺構毎の出土番号及び遺物観察表並びに写真図版番号に対応する。
3. 遺物実測図中の内面黒色処理した土器の内面にはスクリーントーンを貼付した。また、須恵器の断面は黒色に塗りつぶした。
4. 遺物観察表の色調は、農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に従った。
5. 遺構・遺物の写真図版の縮尺は不統一である。

目 次

巻頭図版

序文

例言

凡例

第 1 章 調査の経緯	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 発掘調査の方法	2
第 3 節 調査の経過	2
第 1 項 発掘調査	2
第 2 項 整理作業・報告書作成作業	3
第 2 章 遺跡の位置と環境	4
第 1 節 遺跡の位置と地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	7
第 3 章 発見された遺構と遺物	16
第 1 節 調査の概要	16
第 2 節 竪穴住居跡	19
第 3 節 溝跡	23
第 4 節 井戸跡	24
第 5 節 掘立柱建物跡	24
第 6 節 円形周溝遺構	24
第 7 節 土坑	25
第 8 節 その他の遺物	27
第 4 章 まとめ	28
附編	60
第 1 節 立ち会い調査	60
第 2 節 砂田東遺跡立ち会い調査	62

挿図目次

第1図	西刑部西原遺跡位置図	4
第2図	遺跡の位置(1/60万)	5
第3図	周辺地形分類図(1/10万)	6
第4図	周辺の遺跡	14
第5図	グリッド配置図	16
第6図	発掘調査箇所	17
第7図	遺構配置図	18
第8図	縄文時代の遺物	27
第9図	遺構実測図 (1)	29
第10図	遺構実測図 (2)	30
第11図	遺構実測図 (3)	31
第12図	遺構実測図 (4)	32
第13図	遺構実測図 (5)	33
第14図	遺構実測図 (6)	34
第15図	遺構実測図 (7)	35
第16図	遺構実測図 (8)	36
第17図	遺構実測図 (9)	37
第18図	遺構実測図 (10)	38
第19図	遺構実測図 (11)	39
第20図	遺構実測図 (12)	40
第21図	遺構実測図 (13)	41
第22図	遺構実測図 (14)	42
第23図	遺構実測図 (15)	43
第24図	遺物実測図 (1)	44
第25図	遺物実測図 (2)	45
第26図	遺物実測図 (3)	46
第27図	遺物実測図 (4)	47
第28図	遺物実測図 (5)	48
第29図	遺物実測図 (6)	49
第30図	遺物実測図 (7)	50
第31図	遺物実測図 (8)	51
第32図	遺物実測図 (9)	52
第33図	遺物実測図 (10)	53
第34図	遺物実測図 (11)	53
第35図	立ち会い調査トレンチ・遺構配置図	60
第36図	立ち会い調査遺構実測図	61
第37図	立ち会い調査遺物実測図	61
第38図	確認調査位置図(砂田東遺跡)	63

表目次

第1表	西刑部西原遺跡周辺の遺跡	15
第2表	遺物観察表 (1)	54
第3表	遺物観察表 (2)	55
第4表	遺物観察表 (3)	56
第5表	遺物観察表 (4)	57
第6表	遺物観察表 (5)	58
第7表	遺物観察表 (6)	59
第8表	立ち会い調査遺物観察表	62

写真図版目次

図版一 航空写真

- 西刑部西原遺跡航空写真(北東から)
- 西刑部西原遺跡航空写真(北から)

図版二 遺構写真(竪穴住居跡1)

- SI-12セクション・遺物出土状況(西から)
- SI-12遺物出土状況(西から)
- SI-12遺物出土状況(北西から)
- SI-12完掘状況(西から)
- SI-21セクション・遺物出土状況(南西から)
- SI-60遺物出土状況(南から)
- SI-60 P-1セクション(南から)
- SI-36セクション(北西から)

図版三 遺構写真(竪穴住居跡2)

- SI-36遺物出土状況(南から)
- SI-36遺物出土状況(北から)
- SI-36貯蔵穴セクション(西から)
- SI-36貯蔵穴遺物出土状況(東から)
- SI-24セクション(北西から)
- SI-24遺物出土状況(南から)
- SI-24遺物出土状況(西から)
- SI-24貯蔵穴遺物出土状況(南から)

図版四 遺構写真(竪穴住居跡3)

- SI-24 P-3セクション(南から)
- SI-24完掘状況(南から)
- SI-24貯蔵穴完掘状況(南から)
- SI-24・50・51完掘状況(南西から)
- SI-30セクション(南東から)
- SI-30完掘状況(南から)
- SI-30完掘状況(南から)
- SI-30カマドセクション(東から)

図版五 遺構写真(竪穴住居跡4)

- SI-30カマド完掘状況(南から)
- SI-51セクション(東から)
- SI-51遺物出土状況(南東から)
- SI-51遺物出土状況(北から)
- SI-51貯蔵穴セクション(南から)
- SI-51貯蔵穴遺物出土状況(南から)
- SI-51貯蔵穴完掘状況(南から)
- SI-51カマドセクション(東から)

図版六 遺構写真(竪穴住居跡5)

- SI-51カマド完掘状況(南西から)
- SI-51カマド下方完掘状況(南から)
- SI-51完掘状況(南西から)
- SI-57・59完掘状況(南西から)

SI-59カマド完掘状況（南西から）
 SI-59カマドセクション（南東から）
 SI-07セクション・遺物出土状況（西から）
 SI-07遺物出土状況（西から）

図版七 遺構写真（竪穴住居跡6）

SI-10セクション（西から）
 SI-10セクション（西から）
 SI-10鉄製品等出土状況（東から）
 SI-02遺物出土状況（南東から）
 SI-02西壁セクション（東から）
 SI-02遺物出土状況（東から）
 SI-02完掘状況（南から）
 SI-57・59セクション（南西から）

図版八 遺構写真（竪穴住居跡7）

SI-57セクション（南東から）
 SI-57遺物出土状況（南西から）
 SI-57遺物出土状況（南西から）
 SI-57 P-2セクション（東から）
 SI-57 P-3（貯蔵穴）セクション（南から）
 SI-57遺物出土状況（西から）
 SI-57 P-4完掘状況（南から）
 SI-57カマドセクション（南東から）

図版九 遺構写真（竪穴住居跡8）

SI-57カマド完掘状況（南西から）
 SI-57・59完掘状況（南西から）
 SI-35セクション（南東から）
 SI-35遺物出土状況（南西から）
 SI-35遺物出土状況（南から）
 SI-35カマドセクション（南東から）
 SI-35カマド完掘状況（南西から）
 SI-35床下土坑完掘状況（南東から）

図版一〇 遺構写真（竪穴住居跡9）

SI-35・36・42セクション（南から）
 SI-03完掘状況（東から）
 SI-03セクション（東から）
 SI-05・SX-04セクション（西から）
 SI-05完掘状況（東から）
 SI-42セクション（南東から）
 SI-42完掘状況（南から）
 SI-42完掘状況（北東から）

図版一一 遺構写真（竪穴住居跡・溝跡・円形周溝遺構）

SI-42カマド完掘状況（北から）
 SI-50セクション（西から）
 SI-50完掘状況（北から）
 SD-29セクション（西から）
 SD-29遺物出土状況（南西から）

SD-29完掘状況（南西から）
 SX-28・SD-29・32完掘状況（南西から）
 SX-28完掘状況（南から）

図版一二 遺構写真（溝跡・円形周溝遺構・井戸跡・挟り込み土坑）

SD-29・SX-28セクション（西から）
 SE-11セクション・完掘状況（西から）
 SE-01遺物出土状況（東から）
 SE-01セクション（東から）
 SE-01完掘状況（東から）
 SI-02・SE-01完掘状況（南東から）
 SK-25セクション（東から）
 SX-04（北）セクション（西から）

図版一三 遺構写真（円形周溝遺構・掘立柱建物跡・土坑1）

SX-04（南）セクション（西から）
 SX-04・SI-05完掘状況（南から）
 SX-04完掘状況（東から）
 SB-33完掘状況（南東から）
 SB-33完掘状況（北東から）
 SK-09セクション（西から）
 SK-09完掘状況（東から）
 SK-13セクション（南から）

図版一四 遺構写真（土坑2）

SK-13完掘（南から）
 SK-14セクション（西から）
 SK-14完掘状況（西から）
 SK-15セクション（南から）
 SK-15完掘状況（南から）
 SK-16セクション（南から）
 SK-16完掘状況（南から）
 SK-17セクション（南から）

図版一五 遺構写真（土坑3）

SK-17完掘状況（南東から）
 SK-18セクション（東から）
 SK-19セクション（南から）
 SK-19完掘状況（南から）
 SK-20セクション（東から）
 SK-23セクション（西から）
 SK-34・SI-30(P-1)セクション（南から）
 SK-34・SI-30(P-1)完掘状況（南から）

図版一六 遺構写真（土坑4・西刑部西原遺跡現況）

SK-49セクション（南から）
 SK-49完掘状況（西から）
 SK-55セクション（南から）
 SK-55完掘セクション（南から）
 西刑部西原遺跡現況（南から）

図版一七 遺物写真 (1)

SI-12・SI-60出土遺物

図版一八 遺物写真 (2)

SI-36・SI-24出土遺物

図版一九 遺物写真 (3)

SI-24・SI-30・SI-51出土遺物

図版二〇 遺物写真 (4)

SI-51・SI-59・SI-07・SI-10出土遺物

図版二一 遺物写真 (5)

SI-02・SI-57出土遺物

図版二二 遺物写真 (6)

SI-57出土遺物

図版二三 遺物写真 (7)

SI-57・SI-10出土遺物

図版二四 遺物写真 (8)

SI-35・SK-25・SK-31・SD-29・SE-11出土物

図版二五 遺物写真 (9)

SE-01・SX-28出土遺物

図版二六 遺物写真 (10)

SI-12・SI-60・SI-24・SI-51・SI-59・SI-07・SI-10・SI-57
・SE-01出土遺物 (疎)

図版二七 遺物写真 (11)

SI-36・SI-24・SI-30・SI-59・SI-10・遺構外出土遺物
(白玉、石製模造品、土製勾玉、紡錘車)

図版二八 遺物写真 (12)

SD-29出土遺物 (白玉、石製模造品)、SI-10・SI-57・SI-50出
土遺物 (鉄製品)、縄文土器

図版二九 航空写真

西刑部西原遺跡航空写真 (南東から)

西刑部西原遺跡航空写真 (西から)

図版三〇 立ち会い調査

立ち会い調査箇書調査風景

SI-61 遺物出土状況 (北から)

SI-61 遺物出土状況 (東から)

SI-62 完掘状況 (西から)

立ち会い調査出土遺物

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

西刑部西原遺跡の所在する、西刑部町の南西に広がる東谷・中島地区は、東に新四号バイパス、県道二宮・宇都宮線(砂田街道)、南に県道雀宮・真岡線、北に宇都宮環状線に画された、東西1km、南北2.5kmの範囲である。同地域は、昭和58年に栃木県により栃木新時代創造計画が策定され、「高度な技術を持つ産業の集積、産・学・官の共同交流による頭脳ネットワークの形成、そして自然と都市機能が調和した快適な生活環境づくり」を目的とする宇都宮テクノポリス計画東谷・中島地区となり、昭和59年高度技術工業集積地域開発促進法(テクノポリス法)に基づいて通商産業省(当時)から開発計画の承認を受け開発が進められた。現在は「インターパーク宇都宮南」として商業施設・住宅地として整備され、北関東自動車道および宇都宮・上三川インターチェンジの開通に伴い、物流の拠点として発展を続けている。当該地域は、東谷・中島地区土地区画整理事業に伴う発掘調査ならびに、北関東自動車道建設に伴う発掘調査が実施されており、多くの発掘調査成果が報告されている。

本書に収める発掘調査は、先のインターパーク宇都宮南(東谷・中島土地区画整理事業)の北東を走行する県道二宮宇都宮線砂田工区の改良事業に伴い実施されたものである。

栃木県教育委員会事務局文化財課では栃木県県土整備部から県道二宮宇都宮線砂田工区の改良事業に係る遺跡の確認調査の依頼があり、平成21年1月28・29日に県道拡幅予定地内を重機による掘削で、表面・断面などの観察を行った。その結果を平成21年2月3日付文財第9-3号「一般国道二宮宇都宮線(宇都宮市砂田、西刑部西原遺跡)における確認調査の結果について(報告)」により、道路改良工事予定地内に堅穴住居跡6軒他遺構が多数検出されたことが、県土整備部道路整備課長ならびに宇都宮土木部長に報告がなされた。その後の県土整備部と教育委員会事務局文化財課との協議により、平成21年度の4月から6月の3ヶ月で発掘調査を実施し、6ヶ月で整理・報告書作成作業を実施することが決定した。

平成21年4月30日付道整号外「平成21年度埋蔵文化財の発掘調査について(依頼)」により県土整備部長より教育委員会教育長へ発掘調査の依頼がなされ。それにより、平成21年5月1日付文財号外「平成21年度県土整備部道路整備事業に伴う発掘調査(西刑部西原遺跡)の費用見積について(依頼)」により、栃木県教育委員会事務局文化財課長より財団法人とちぎ生涯学習文化財団理事長へ、発掘調査の見積もりが依頼された。

財団法人とちぎ生涯学習文化財団では、同日付けとち埋文第35号「平成21年度西刑部西原遺跡発掘調査(緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う発掘調査)に係わる見積書の提出について(回答)」で見積金額24,965,000円(うち公課費1,189,000円)の積算を提出した。その見積書の積算を受け平成21年5月1日付文財号外「平成21年度県土整備部道路整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査について(回答)」により、埋蔵文化財の発掘調査、並びに整理作業・報告書作成作業の実施について回答がなされ、同時に平成21年5月1日付文財号外「平成21年度西刑部西原遺跡発掘調査の埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結について」で委託業務を締結した。「埋蔵文化財発掘調査業務受託契約書」による委託する業務の名称は「西刑部西原遺跡発掘調査(緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う発掘調査)、発掘調査地は「宇都宮市西刑部町」、委託業務の内容は「発掘調査(925km)・整理作業・報告書作成、委託期間は平成21年5月1日から平成22年3月30日まで」、委託料は「金24,965,000円(うち消費税及び地方消費税の額1,188,809円)」であった。

第2節 発掘調査の方法

発掘調査区が隣接している県道は、交通量が多いうえにガードレール等の安全施設が設置されていなかった。このため、発掘調査時の危険な状況を回避するために、安全柵と安全灯を設けることから着手した。また、道路際ということで、空き缶・空き瓶、ゴミ等の不法投棄が著しく、表土除去作業を行う上で支障がおこるため、空き缶などの清掃も併せて行った。

発掘調査範囲は、細長く幅が狭い形状のため、調査区内では重機による表土除去作業や作業員による発掘調査に伴う廃土を置く場所を設けることが難しく、また、調査期間が限られていることから、隣接する土地を廃土置き場として借地し、表土除去作業は調査区全面を同時に行った。それに伴う廃土については、Ⅰ区は調査区の東側の土地に重機により直接移動し、Ⅱ・Ⅲ区はⅢ区の東側の土地にクローラードンプを使用して移動させた。また、発掘調査時の廃土はそれぞれ表土除去作業と同じ場所に人力で移動した。また、現場プレハブも調査地には設置する場所が確保出来ないため、調査区から東に約100mの土地を借地し使用した。

国家座標を基準にした基準杭設定を計画していたが、調査区の幅が狭いため、座標に合わせての杭が打てないので、発掘調査時にⅠ・Ⅱ・Ⅲ区とも調査区に合わせて任意の場所に座標杭を打設し、それを基にトータルステーションによる遺構の平面図の実測を行った。

表土除去作業後に作業員による遺構確認作業、各遺構精査を南側のⅠ区から北側に向かってⅡ区・Ⅲ区と順番に実施した。遺構の調査後、遺構写真撮影、測量の後、航空写真を撮影し、埋戻し作業を行い調査を終了した。

第3節 調査の経過

第1項 発掘調査

発掘調査は平成21年5月から7月の3ヶ月で行われた。

5月1日委託契約締結

5月2日からは埋蔵文化財センターにおいて発掘調査の器材等の準備を行うとともに、現場での作業等を下記のとおり行った。

5月14日調査区現況確認・廃土置き場等賃貸借契約書取り交わし。

5月18日表土除去作業準備・廃土置き場等賃貸借契約書取り交わし。

5月19日表土除去作業準備。

5月22日廃土置き場等賃貸借契約書取り交わし。

5月26日関係機関打ち合わせ

5月29日プレハブ設置・発掘調査区内表土除去準備（ゴミ、空き缶等除去）。

6月1日保安柵、安全灯の設置・発掘器材搬入。

6月2日保安柵、安全灯の設置。

6月3日～5日重機による表土除去作業

6月8日発掘調査準備

6月9日Ⅰ区遺構確認作業。

6月10日Ⅱ区遺構確認作業。

6月12日Ⅲ区遺構確認作業・Ⅰ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 6月15日～18日Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 6月23日～26日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 6月29日～30日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 7月1日～3日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 7月6日～10日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 7月13日～17日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 7月21日～24日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。
 7月27日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。Ⅰ区・Ⅱ区安全柵撤去作業・埋戻し作業。
 7月28日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。Ⅲ区安全柵撤去作業。プレハブ撤去。
 7月29日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。Ⅲ区安全柵撤去作業・埋戻し作業。
 7月30日Ⅲ区遺構掘込作業・写真撮影・図面作成。Ⅲ区埋戻し作業。
 7月31日Ⅲ区埋戻し作業。器材等撤出作業
 8月3日埋戻し後状況確認。廃土置き場等地権者挨拶。
 8月10日宇都宮土木事務所へ引き渡し。

第2項 整理作業・報告書作成作業

8月からは埋蔵文化財センターにおいて、調査現場で作図した図面・写真類の整理や、出土遺物の洗浄から始まる一連の整理・報告書作成作業を行った。

遺物の総量は中サイズの遺物収納箱で20箱分である。

主な整理・報告書作成作業を下記のとおり実施した。

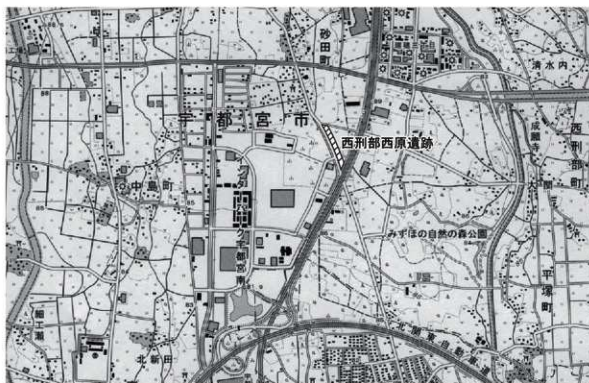
8月3日から8月の下旬にかけて資料、出土遺物の確認作業・遺構図面整理を行う。
 8月3日～8月16日出土遺物洗浄作業・遺構図面整理。
 8月17日～9月17日出土遺物注記作業（第一合成株式会社より遺物注記用インクジェットプリンターを貸借し、作業の効率化を図った。
 9月14日～10月28日出土遺物接合・復元作業。
 10月20日～11月19日出土遺物実測作業。
 11月24日～12月17日出土遺物図面製図作業。
 12月21日～出土遺物版下作成作業。
 11月24日～1月14日遺構図面製図作業。
 12月中旬より原稿執筆作業。
 1月21日栃木県教育委員会事務局文化財課の立ち会い調査の資料が追加される。
 2月22・23日栃木県教育委員会事務局文化財課の立ち会い調査の資料が追加される。

第2章 遺跡の位置と環境

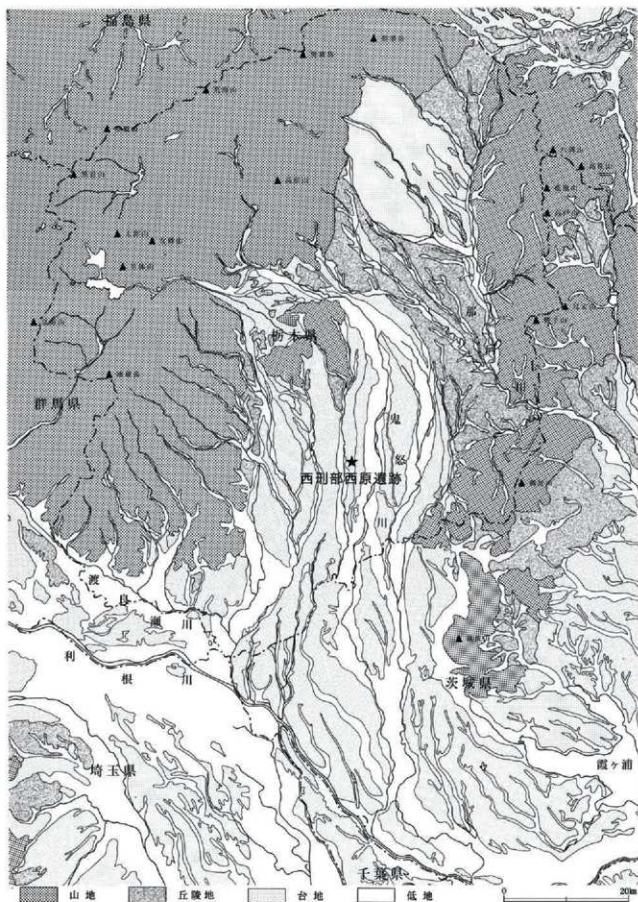
第1節 遺跡の位置と地理的環境

位置 西刑部西原遺跡は栃木県城の南東部、宇都宮市と河内郡上三川町の境界に近く、宇都宮市街地から南南東へ約7km、上三川町の中心部から北へ約6kmに位置する。東へ約5kmには鬼怒川、西へ約1.5kmには田川がそれぞれ南流する。周辺は起伏の少ない田園地帯が広がり、遺跡の発掘調査前の状況は水田、畑地であった。また、遺跡は県道二宮宇都宮線の拡幅工事に伴うため、道路にそって調査を行っており、東側には近接して国道4号バイパス(新4号国道)、北側約0.5kmには宇都宮環状線が通り、南側約1.3kmには北関東自動車道路の宇都宮・上三川インターチェンジがあり、交通の要衝として重要性を高めつつある。こうした利便性と相まって、近年はインターパーク宇都宮南の東谷・中島区画整理事業により本地域は流通業施設や商業施設等の進出と市街化が進行している。

地形の分類 栃木県は関東地方の北部に位置し、東と南を茨城県、西を群馬県、北を福島県と境を接している。栃木県の地形は大きく見ると、東部山地、中央部平地、西部山地に分けられる。東部山地は八溝、鷲子、鷲足などの山塊からなる八溝山地、西部山地は那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である、東西の山地は南北に連っており、両者に挟まれるように中央部平地が広がる。(阿久津1981)、本遺跡は中央部平地に位置する。中央部平地は関東平野の北縁をなし、山地から南北に延びる丘陵とそれに並行するように延びる台地と低地・河川からなる。これらの台地と低地・河川は、東から鬼怒川低地(鬼怒川)、岡本・磯岡台地(宝木段丘面＝中段段丘面)、田原・願成寺台地(田原段丘＝下位段丘面)、田川低地(田川)、神主台地(宝積寺段丘面＝上位段丘面)、宇都宮・祇園原台地(宝木段丘面＝中段段丘面)と分類されている。



第1図 西刑部西原遺跡位置図 (国土地理院発行 25,000 分の1地図)

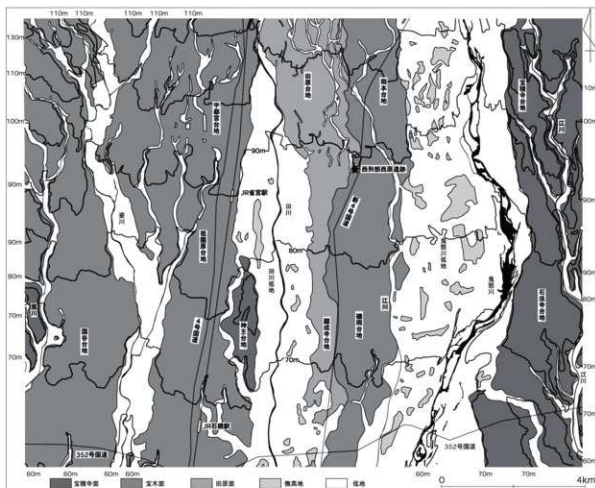


第2図 遺跡の位置 (1/60 万)

田原・願成寺台地 西刑部西原遺跡およびインターパーク宇都宮南の区画整理事業地内に所在した東谷・中島遺跡群は田原・願成寺台地の上に立地する。この台地は中央部低地の中央に南北に連なり、鬼怒川低地(鬼怒川)と田川低地(田川)に挟まれている。宇都宮市北部の今里～北東部の上田原町～宇都宮市街地東部の砂田町・東谷町～河内郡上三川町成願寺・上蒲生周辺にかけての台地であり、全長は約33km、東西の幅は2.0～2.5km、標高は170m～68mである。台地の北から南への傾斜は平均すると4.2/1000mであり、田川低地との比高は1～2m前後である。台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。東側にある一段高い岡本・磯岡台地とは約2mの比高があるが、両地形面の差は南に行くほど不明瞭となっている。

田原・願成寺台地の台地表層部は、田原段丘礫層を最も新しい田原ロームが0.5～2mの厚さで覆っており、南に行くほど薄くなっている。田原ロームの鍵層である七本桜軽石層(Nt-S)と今市軽石層(Nt-I)は日光の男体山から噴出した火山灰とともに1.4～1.5万年 cal B.P.)で、栃木県域北部に分布している。宇都宮市街地北部付近ではやや薄く体積しており、これより以南ではローム層の中に軽石が点在する程度である。田原ロームの下には、礫質土・砂層の厚い堆積が見られる。

田川低地 西刑部西原遺跡の西方には田川低地が広がり、東谷古墳群の西半部が位置している。田原・願成寺台地と田川低地との境には、南流する赤沢川(井川)がある。田川低地は、宇都宮市域の北から宇都宮市街地を通過し南へ延び、田原・願成寺台地の西側に幅1.5～2.0kmにわたって分布する。この低地は、現在水田となっている田川の旧河道とされる部分と、それより1.0～1.5mほど上位で現在は集落が分布する自然



第3図 周辺地形分類図 (1/10万)

堤防などの微高地上に識別することが可能である。低地や微高地の形成時期などを決める資料は得られていないが、およそ2万年前以降に田川の営力によって出来たものと推定されている。

岡本・磯岡台地 田原・願成寺台地の東側には岡本・磯岡台地が広がり、西刑部西原遺跡および琴平塚古墳群や、東側にある西赤堀遺跡などが所在する。田原・願成寺台地と岡本・磯岡台地の間には南流する無名瀬川（※1）がある。岡本・磯岡台地は、宇都宮市（旧河内郡河内町）白沢・岡本～宇都宮市平出・猿山～上三川町磯岡・日産自動車用地～下野市（旧河内郡南河内町）三王山周辺の南北に長い台地である。全長約35km、東西幅1.5～2.5km、標高162.5～54mである。台地の北から南への傾斜は4.5/1000～1/1000で南ほど緩傾斜となる。鬼怒川低地との比高差は白沢付近で約15mあり明瞭であるが、南へ行くほど緩斜面状を呈する。台地表層部は宝木段丘礫層を田原ロームと宝木ロームが厚さ5～10m程で覆っている。厚さは南に行くほど薄くなる。台地内部は、小河川によって形成された細かな開析低地が発達している。

※1「むなせがわ」の漢字表記は、インターパーク宇都宮南区画整理事業の開発前の10,000分の1地形図による（上三川町役場1981年作成）。「武名瀬川」や田川用水」とも表記・呼称されている。

参考文献

栃木県企画部土地対策課 1984『土地分類基本調査 壬生』

経済企画庁総合開発局国土調査課 1960『土地分類基本調査 地形・表層地質・土壌調査 宇都宮』

上三川町史編さん委員会 1979『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町

宇都宮市史編さん委員会 1979『宇都宮市史』第1巻 原始・古代編 宇都宮市

阿久津 純 1981「自然と環境」栃木県史編さん委員会『栃木県史』通史編1 原始・古代一 栃木県pp.11-36

第2節 歴史的環境

西刑部西原遺跡(146)の周辺には、南北に展開する地形にそって、各時代にわたる多くの遺跡が存在している。特に、本遺跡の南東に広がる遺跡群は、インターパーク宇都宮南の東谷・中島地区区画整理事業による発掘調査により、古墳時代及び古代において下野国の中心地域の一つであることが確認されている。ここでは、本遺跡に係わる古墳・奈良～平安時代の主な遺跡を中心に概観する。

なお、起稿にあたっては磯岡遺跡(塚原1999)、杉村・磯岡・磯岡北(藤田2000)を基に、執筆者の了承を得て若干の加除をした。また、遺跡地図および遺跡一覧表は、中島笹塚古墳・中島笹塚遺跡(内山2008)をほぼそのまま使用している。

縄文時代 草創期、早期、前期は遺跡や遺構の数が少ない。殿山遺跡(85)では遺構は確認されていないものの、遺物量は多く、集落の存在を示唆している。中期は14遺跡が確認されており、そのうち6遺跡で遺構が確認されている。本時期では堅穴住居跡等が存在し、集落が形成されたことは明らかである。石川坪遺跡(44)、島田遺跡(178)、根本遺跡(185)では堅穴住居跡と袋状土坑や土坑が多数確認されており、規模が大きな集落を形成していたことが想定される。立野遺跡(108)、磯岡遺跡(164)などで堅穴住居跡や土坑が確認されているが、規模は小さい。後期は16遺跡が確認されているが、明確な遺構が把握できたのは立野遺跡(108)の土坑程度である。ただし、石川坪遺跡(44)、殿山遺跡(85)、粕内遺跡(94)では土器・石器・土製品等の遺物が多数出土しており、集落の存在を想定させる。晩期は8遺跡である。遺構は西下谷田遺跡(50)で土坑が

12基確認されたのみである。

弥生時代 34遺跡が確認されている。前期については今のところ明らかではない。中期は6遺跡である。磯岡遺跡(164)、仏沼遺跡(173)で土坑が確認されており、磯岡北遺跡(153)では竪穴住居跡1軒と土坑2基が確認されている。後期は16遺跡が確認されている。後期になり確実に遺跡の数は増加している。遺跡の分布は田川西岸の神主台地及びその西側の祇園原台地にも広がる。遺構が調査されたのは8遺跡である。竪穴住居跡は本村遺跡(1)、天狗原遺跡(36)、大山遺跡(58)で1軒、瑞穂野田遺跡(135)で2軒、茂原大日塚古墳(75)周辺及び墳丘下で4軒調査されている。また、向原南遺跡(84)で4軒、上ノ原遺跡(56)で10軒、殿山遺跡(85)で約20軒確認されているが、この3遺跡は狭い低地を挟んだ台地上に位置し、関連する遺跡と捉えられる。二軒屋(中原)遺跡(20)は後期二軒屋式土器の標式遺跡として著名である。

古墳時代 約150の遺跡が確認されている。古墳については、単独で存在するものを含め古墳群は58遺跡、古墳の総数は少なくとも285基ある。方形周溝墓は2遺跡で4基ある。また、前期古墳は4基、中期古墳は11基、後期古墳(群)は20遺跡であると推定される。集落は99遺跡あり、前期9遺跡、中期19遺跡、後期29遺跡である。

前期は前代に引き続き田川西岸の神主台地及びその周辺が遺跡の中心となる。特にその傾向は古墳について顕著で、本地域の前期古墳はすべて当該地域に集中している。具体的には茂原古墳群の茂原権現山古墳(74)、茂原大日塚古墳(75)、茂原愛宕古墳(76)、神主古墳群(82)の上神主浅間神社古墳(神主1号墳)である。これらの古墳は4世紀後半から5世紀初頭ないし前半における田川流域の小地域圏の首長墓とされ、大日塚古墳→愛宕古墳→権現山古墳→浅間神社古墳の順で築造されたことが想定されている。大日塚古墳、愛宕古墳、権現山古墳は前方後方墳であり、規模は35.8m、50m、63mと次第に拡大する。浅間神社古墳は前期末から中期初頭にかけての直径58mの大型円墳で、笹塚古墳より古く位置づけられている。また、神主台地の北約1.5kmにはバレス壺が出土した方形周溝墓が2基発見された牛塚東遺跡がある。集落については古墳の分布よりやや拡散していることがわかる。竪穴住居跡が確認されている6遺跡のうち、天狗原遺跡(36)と砂田東遺跡(104)は神主台地とは大きく隔たっている。天狗原遺跡は姿川水系であり田川水系とは一線を画すものであろう。砂田東遺跡は現段階では周囲に同時期の古墳や集落が存在せず、杉村遺跡(111)では前期末の遺構が数軒あるが、この段階では大規模な集落は形成しておらず、主体となる中期後半とは少なからず断絶がある。西下谷田遺跡(50)、上ノ原遺跡(56)、木田遺跡(68)、権現山北遺跡(72)については最も北にある権現山北遺跡が神主台地、他は神主台地西側に相対するように祇園原台地東縁部に南北方向に並び、集落の規模は西下谷田遺跡が最も大きく、竪穴住居跡が16軒確認された。以上、前期古墳と集落の中心となる地域は、田川西岸の神主台地及び西に隣接する祇園原台地東縁部と考えられる。

中期は前期と比較すると、遺跡の大幅な増加と、より広範囲への展開がみられる。具体的には神主台地周辺より、田川東岸地域や西岸のやや北部域に集落が形成されるようになる。古墳については、塚山古墳群(17)の塚山古墳(1号墳)・塚山西古墳(2号墳)、雀宮牛塚古墳(33)、大山古墳群(62)の五社神社古墳(大山1号墳)・新出古墳(大山13号墳)・長塚古墳(大山D20号墳)、神主古墳群(82)の下原古墳(神主20号墳)、東谷古墳群の笹塚古墳(117)と鶴舞古墳(118)、上郷の古墳群(172)の愛宕神社古墳(上郷1号墳)、上三川地区の古墳群(179)の八龍塚古墳(上三川1号墳)がある。これらのうち、大山、神主、上郷の各古墳群の古墳については発掘調査が行われておらず、内容は明らかになっていない。中期を特徴づけるのは大型前方後円墳の出現である。5世紀第3四半期より古いとされる笹塚古墳は推定墳長約100m、後出する塚山古墳は墳長98mである。両古墳ともこの時期では県内最大規模であり、少なくとも両古墳は田川流域より広域的な首長

墓であると理解することが可能であろう。また、前期と比較すると、前方後円墳から前方後円墳への墳形の変化と、墳丘の規模が2倍程度の長さになり、格段の規模の増大が見られる。また笹塚古墳のような低位面への進出や、埴輪の導入等の特徴としてあげることができる。その他中期の前方後円墳とされるものには、五社神社古墳、新出古墳、長塚古墳があり、墳長は40～50mである。また、中期の後半から一部後期初頭にかけて、塚山古墳、宮宮牛塚古墳、下原古墳、八龍塚古墳などの帆立貝型の前方後円墳がある。このうち、5世紀末から6世紀初頭の牛塚古墳は、鏡・鉄製品・玉類等豊富な副葬品を持つことで知られている。鶴舞塚古墳、松の塚古墳、愛宕神社古墳、は大型の円墳であり、鶴舞塚古墳は隣接する笹塚古墳と周溝が重複すると見られるが、前後関係は明らかでない。松の塚古墳は周溝の外側の規模が100mと推定され、Ha-FA降下(6世紀初頭)以前の築造であることが確かめられている。

集落については、古墳と同様な分布の傾向を示すが、特に田川東岸のより低位な台地への進出が顕著となる。また、遺跡数も増加の傾向にある。前期に中心地であった神主台地周辺には、権現山北遺跡では竪穴住居跡8軒、薄市遺跡(86)では竪穴住居跡2軒が確認されている。また、殿山遺跡(85)では古墳時代の竪穴住居跡が447軒も存在し、中期に属するものが相当数ある。この遺跡には東西約50m、南北約60mのやや歪んだ長方形を呈する方形区画遺構が存在する。区画内は削平が著しくごく一部を除き遺構は確認されていないが、西・北・東の3辺で突出部が認められ、橋脚の可能性が指摘できる部分もある。田川東岸域は、笹塚古墳北東部、田原・願成寺台地(田原面)の中心とした広範囲に集落が展開する。具体的には杉村遺跡(111)をはじめ、砂田遺跡(103)、砂田東遺跡(104)、砂田姥沼遺跡(106)、立野遺跡(108)、権現山遺跡(110)、杉村遺跡(111)、磯岡北遺跡(153)、磯岡遺跡(164)等に竪穴住居跡が多数確認されている。また、特殊な遺構として、原遺跡および杉村遺跡に跨る居館跡とその南南東約200mに位置する方形柵列遺構などがあげられる。居館跡は5世紀後葉と考えられ、東辺部の堀は長さ100mである。堀による区画内の調査はごく一部であるが、堀の約2m内側には柱穴列が巡り、区画内北東部には棟持ち柱を持つ大型の掘立柱建物跡が、南東部には2×2間の柵柱式掘立柱建物跡が確認されている。方形柵列遺構は南北辺の一部と東辺が確認され、南北約47mの規模を持つことが判明した。岡本・磯岡台地(宝木面)にも成願寺遺跡(144)や大野遺跡(176)等集落は存在する。成願寺遺跡は中期の竪穴住居跡が22軒あり、比較的規模が大きい。一方、田川西岸宇都宮台地(宝木面)の塚山古墳周辺の状況はそれほど明らかになってはいない。田川流域に面する集落としては雷電山遺跡(6)と北若松原遺跡(16)が存在する程度である。このうち、雷電山遺跡は、5世紀後葉の長方形プランを呈する竪穴住居跡8軒が主軸を同じくして整然と並んで配置され、通常の集落との違いも指摘されている。

後期になると遺跡数はさらに増加し、分布範囲も拡大の傾向が見られる。具体的には前代の分布域である田川の東西段丘面は継続して発展して遺跡が営まれ、さらに東方へ範囲が拡大する。特に岡本・磯岡台地(宝木面)への進出が行われ、一部の古墳(群)ではそれまで確認されなかった鬼怒川低地にも分布が認められる。大型前方後円墳は塚山古墳の後、小山市の摩利支天塚古墳(墳長115m、5世紀後半から6世紀初頭)、琵琶塚古墳(墳長123m、6世紀前半)、壬生町吾妻古墳(墳長128m、6世紀後葉)など、本地域より南の姿川と思川の合流点周辺につくられ、県内でも傑出した規模を有する。一方、本地域には6世紀代で60mを超える古墳は見られない。具体的に本域の古墳を概観する。後期における古墳(群)の増加は本地域も例外ではなく、未調査のものまで含めると先に述べた20基の古墳(群)をはるかに上回ることが予想される。このうち明らかに6世紀代と考えられる古墳は、塚山古墳群(17)、の塚山南古墳(3号墳)、神主古墳群(82)の上神主狐塚古墳(神主5号墳)・後志部古墳(神主7号墳)、久部愛宕塚古墳群(124)の久部愛宕塚古墳(1号墳)、

南原古墳(140)、琴平塚古墳群(154)の琴平塚古墳、西赤堀遺跡(161)の円墳2基、西赤堀孤塚古墳(168)、小原高尾神社古墳(183)、高麗神社古墳(186)などである。塚山南古墳、上神主孤塚古墳、後志部古墳は中期から継続する古墳群に属している。久部愛宕塚古墳、南原古墳、琴平塚古墳、西赤堀遺跡の2基の円墳、西赤堀孤塚古墳は岡本・磯岡台地(宝木面)に立地し、本域南部の一部中期古墳とは別に、後期になり新たに造営されたものであろう。7世紀代とされるものは、成願寺遺跡(144)の方墳3基と円墳4基、西赤堀遺跡(161)の前方後円墳2基、及び終末期とされる下栗大塚古墳(98)である。

集落については、古墳の分布とほぼ同様の傾向が看取される。比較的大規模な集落としては、北若松原遺跡(16)、木田遺跡(68)、権現山北遺跡(72)、向原遺跡(83)、向原南遺跡(84)、殿山遺跡(85)、薄市遺跡(86)、砂田遺跡(103)、立野遺跡(108)、杉村遺跡(111)、瑞穂野団地遺跡(135)、成願寺遺跡(144)、磯岡北遺跡(153)、西赤堀遺跡(161)、磯岡遺跡(164)などがある。7世紀にはいると田川西岸神主台地周辺で古代への新たな展開がみられる。西下谷田遺跡(50)では竪穴住居跡66棟と掘立柱建物跡40棟の他に八脚門を伴う東西108m、南北150mの掘立柱塀による区画施設が設けられ、内部には大型竪穴建物3棟、掘立柱建物跡7棟が配されており、評家かと考えられている。

奈良・平安時代 本遺跡は東山道に属する下野国のなかで、河内郡にあたる。河内郡には、丈部、刑部、大統、酒部、三川、財部、真壁、輕部、池辺、衣川の10の郷が存在したとされる。

分布図中では104遺跡(奈良時代97遺跡、平安時代82遺跡)が確認されている。このうち竪穴住居跡が確認され、集落として判明している遺跡は40遺跡(奈良時代32遺跡、平安時代31遺跡)ある。古墳時代後期と比べ大きく増加している。また、分布状況は、前代に拡大した地域全体を網羅し、遺跡の密度が高くなってきている。各段丘面には集落が展開する一方で、田川低地、鬼怒川低地では遺跡の把握が難しくなり、その分布は不明確である。また、当時の集落の展開状況に比べ、水田等生産基盤に係わる遺構がほとんど把握されていない状況から、低地部分もある程度の範囲が水田等として利用されていたことは予想される。

次に本地域の遺跡を具体的にしてみると、多功遺跡(69)では、掘立柱建物跡13棟、礎石建物10棟等の倉院と考えられる建物群が確認されている。これらは、8世紀中葉以前、8世紀中後葉、9世紀代(10世紀下限)の大きく3時期の変遷が想定されており、河内郡衙と推定されている。上神主・茂原遺跡(79)は、東西14間、南北4間の瓦葺き総柱式掘立柱建物跡を中心とした大型掘立柱建物跡群、全城を区画する東西250m、南北350m以上の溝、多量の人名瓦等が確認されている。また、東山道に取り付く位置にあり奈良時代における河内郡家政庁と正倉群と考えられている。西赤堀遺跡(161)では、8世紀後半から9世紀初頭の竪穴住居跡、井戸跡等のほか、大型の掘立柱建物跡9棟が確認され、郷にかかわる中心的建物群との見解も示されている。東山道については、そのルートが推定の域を出なかったが、近年の調査により明らかにされつつある。本地域では、杉村遺跡(111)、磯岡北遺跡(153)、磯岡遺跡(164)の調査が行われ、磯岡北遺跡では、側溝の変遷により8世紀前半、8世紀後半、9世紀代の3時期が確認され、1108年の浅間B火山灰の降下時には側溝が埋没していたことが判明した。

集落については、比較的大規模な集落として関道遺跡(8)、宮の内遺跡(14)、西下谷田遺跡(50)、木田遺跡(68)、向原遺跡(83)、向原南遺跡(84)、殿山遺跡(85)、砂田遺跡(103)、猿山遺跡(134)、瑞穂野団地遺跡(135)等がある。また、近年調査された小屋原遺跡ではさきの郷名のひとつ「財部」の文字の墨書土器が出土している。これらの遺跡は奈良時代から平安時代に継続されるものが多い。

このように本遺跡周辺は、古墳時代の埴塚古墳を始めとする墳墓群と北側に展開する集落群による一大中心地として、また、奈良・平安時代には、範囲を広くとれば、東山道を中心とした河内郡の中核地区のひとつ

つとして、きわめて重要な地域であったことがうかがえる。

註

1. 遺跡分布図及び一覧表の作成にあたっては、文献 1～4 を基本とした。各遺跡の番号は、南北に展開する地形面毎に西側から付した。同一地形面上の遺跡については、北から付した。時代及び時期毎の遺跡数等については、遺跡により発掘調査や報告書の有無等、調査段階に違いがあるため、現状で把握できる範囲に限った。

参考文献

＜遺跡分布図・一覧表作成の基本とした文献＞

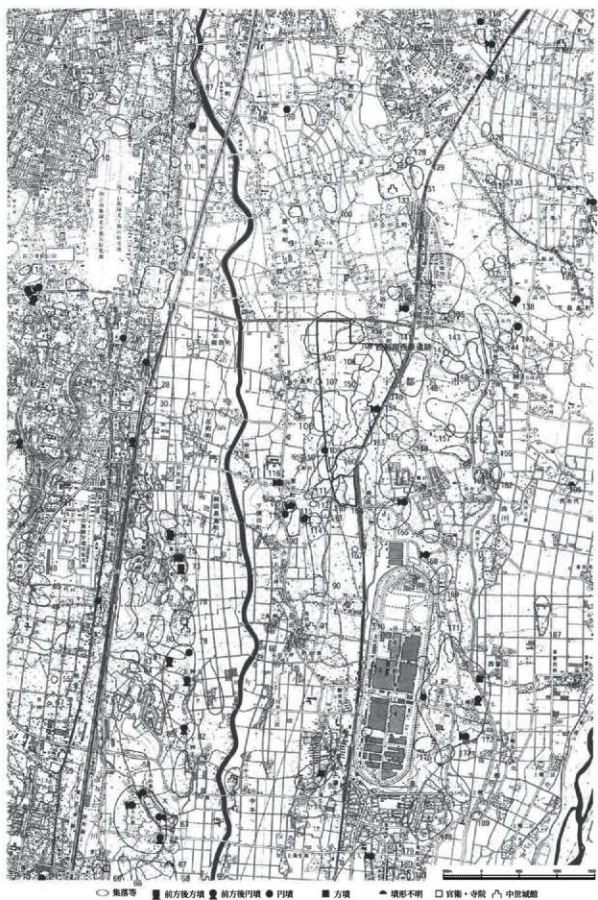
1. 宇都宮市教育委員会 1997 『宇都宮市遺跡地図』 宇都宮市
2. 宇都宮市教育委員会 1983 『宇都宮の遺跡』第10集
3. 上三川町史編纂委員会 1979 『上三川町史 資料編 原始・古代・中世』 上三川町
4. 石橋町史編纂委員会 1984 『石橋町史 第一巻 資料編(上)』 石橋町

＜各遺跡内容確認用文献(年報)＞

5. 栃木県教育委員会 1979 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
6. 栃木県教育委員会 1981 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
7. 栃木県教育委員会 1983 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
8. 栃木県教育委員会 1984 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
9. 栃木県教育委員会 1985 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
10. 栃木県教育委員会 1986 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報』
11. 栃木県教育委員会 1987 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 昭和61年度』
12. 栃木県教育委員会 1988 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 昭和62年度』
13. 栃木県教育委員会 1989 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 昭和63年度』
14. 栃木県教育委員会 1990 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 平成元年度』
15. 栃木県教育委員会 1992 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 平成2年度』
16. 栃木県教育委員会 1993 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 平成3年度』
17. 栃木県教育委員会 1994 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 平成4年度』
18. 栃木県教育委員会 1995 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 17 平成5年度(1993)』
19. 栃木県教育委員会 1996 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 18 平成6年度(1994)』
20. 栃木県教育委員会 1997 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 19 平成7年度(1995)』
21. 栃木県教育委員会 1998 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 20 平成8年度(1996)』
22. 栃木県教育委員会 1999 『栃木県埋蔵文化財保護行政年報 21 平成9年度(1997)』
23. 宇都宮市教育委員会 1986 『宇都宮市文化財年報』第2号[昭和60年度]
24. 宇都宮市教育委員会 1987 『宇都宮市文化財年報』第3号[昭和61年度]
25. 宇都宮市教育委員会 1989 『宇都宮市文化財年報』第5号[昭和63年度]
26. 宇都宮市教育委員会 1990 『宇都宮市文化財年報』第6号[平成元年度]
27. 宇都宮市教育委員会 1991 『宇都宮市文化財年報』第7号[平成2年度]
28. 宇都宮市教育委員会 1992 『宇都宮市文化財年報』第8号[平成3年度]
29. 宇都宮市教育委員会 1993 『宇都宮市文化財年報』第9号[平成4年度]
30. 宇都宮市教育委員会 1994 『宇都宮市文化財年報』第10号[平成5年度]
31. 宇都宮市教育委員会 1995 『宇都宮市文化財年報』第11号[平成6年度]
32. 宇都宮市教育委員会 1996 『宇都宮市文化財年報』第12号[平成7年度]
33. 宇都宮市教育委員会 1997 『宇都宮市文化財年報』第13号[平成8年度]

34. 榑橋木県文化振興事業団 1989 『榑橋木県文化振興事業団年報 昭和63年度』
35. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1991 『埋蔵文化財センター年報 第1号(平成3年度)』
36. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1992 『埋蔵文化財センター年報 第2号(平成4年度)』
37. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1995 『埋蔵文化財センター年報 第5号(平成7年度)』
38. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1996 『埋蔵文化財センター年報 第6号(平成8年度)』
39. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1997 『埋蔵文化財センター年報 第7号(平成9年度)』
40. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1998 『埋蔵文化財センター年報 第8号(平成10年度)』
41. 榑橋木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター 1999 『埋蔵文化財センター年報 第9号(平成11年度)』
 <各遺跡内容確認用文獻(報告書等)>
42. 赤石沢亮 1988 『関道遺跡』宇都宮市埋蔵文化財報告第25集 宇都宮市教育委員会
43. 秋元陽光 1984 『島田遺跡Ⅰ』上三川町教育委員会
44. 秋元陽光・君島利行・諏訪間伸・藤田典夫・植木茂雄 1985 『大町遺跡』上三川町教育委員会
45. 秋元陽光・上野修一・田代隆・藤田典夫 1988 『薄市遺跡・大町遺跡』上三川町教育委員会
46. 秋元陽光 1989 『八龍塚古墳』上三川町教育委員会
47. 秋元陽光・川田均・江原英 1991 『島田遺跡Ⅱ』上三川町教育委員会
48. 秋元陽光 1993 『多功遺跡Ⅱ』上三川町教育委員会
49. 秋元陽光・保坂知子・及川真紀 1997 『多功遺跡Ⅲ』上三川町教育委員会
50. 秋元陽光・今平利幸 1998 『宇都宮市東谷笹塚古墳出土の遺物』『峰考古』第13号 宇都宮大学考古学研究会
51. 安藤美保・上野修一・内山敏行 1996 『西赤堀遺跡』榑橋木県教育委員会・榑橋木県文化振興事業団
52. 石部正志・秋元陽光・宇都宮大学考古学研究会 1994 『上神主浅間神社古墳・多功大塚山古墳』上三川町教育委員会
53. 石部正志・秋元陽光・宇都宮大学考古学研究会 1995 『上神主孤塚古墳』上三川町教育委員会
54. 石部正志・秋元陽光・宇都宮大学考古学研究会 1998 『後志部古墳』上三川町教育委員会
55. 岩上照朗・石橋知明他 1978 『宇都宮市瑞穂野田地遺跡』宇都宮市教育委員会
56. 宇都宮市史編纂委員会 1979 『宇都宮市史』第1巻 宇都宮市
57. 宇都宮市史編纂委員会 1981 『宇都宮市史』別巻 宇都宮市
58. 宇都宮大学考古学研究会 1977 『峰考古』第1号
59. 宇都宮大学考古学研究会 1981 『峰考古』第3号
60. 宇都宮大学考古学研究会 1995 『峰考古』第9号
61. 大川清・水野順慶・矢野淳一 1987 『西赤堀孤塚古墳』上三川町教育委員会・日本家業史研究所
62. 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1992 『上ノ原・向原南遺跡』上三川町教育委員会
63. 大川清・吉岡秀範・三輪孝幸・中島雄一 1995 『榑橋木県上三川町 殿山遺跡Ⅰ』上三川町教育委員会・日本家業史研究所
64. 大和久震平 1969 『牛塚古墳』宇都宮市教育委員会
65. 大和久震平他 1969 『上蒲生遺跡』榑橋木県教育委員会
66. 上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会 1999 『上神主・茂原遺跡発掘調査現地説明会資料』
67. 亀田幸久 1999 『杉村北遺跡』榑橋木県教育委員会・(財)榑橋木県文化振興事業団
68. 川原由典・中山晋 1981 『嶺山遺跡 付 久部台古墳群』榑橋木県教育委員会
69. 久保哲三・宇都宮大学考古学研究会 1979 『権現山北遺跡』宇都宮市教育委員会
70. 久保哲三他 1990 『茂原古墳群』宇都宮市教育委員会
71. 倉田芳郎他 1971 『先史7 榑橋木県日産遺跡』駒沢大学考古学研究会・綿貫邦男「D-28号墳」『榑橋木県日産遺跡』駒沢大学考古学研究会
72. 今平利幸 1993 『牛塚東遺跡』宇都宮市教育委員会
73. 今平利幸 1994 『雷電山遺跡』宇都宮教育委員会
74. 今平昌子 1999 『一本松遺跡・文殊山遺跡』榑橋木県教育委員会・(財)榑橋木県文化振興事業団

75. 斉藤一男 1974 「宇都宮市瑞穂野田地遺跡出土の石器」『下野古代文化創刊号』下野古代文化研究会
 76. 神野安伸 1994 「天狗原遺跡」宇都宮市教育委員会
 77. 杉原在介 1939 「北関東に於ける後期弥生式文化に就いて」『考古学』第10巻第10号 東京考古学会
 78. 芹澤清八 1993 「砂田 A 遺跡」栃木県教育委員会
 79. 田熊清彦 1980 「下野国茂原上神主遺跡出土の古瓦について」『飯田博士古希記念論文集』
 80. 田熊清彦・田熊信之 1980 「下野国河内郡内出土の古瓦」中国・日本史学文学研究会
 81. 田代己佳 1996 「宮の内 A 遺跡・宮の内 B 遺跡」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
 82. 田中国男 1939 「宇都宮郊外東川田の弥生式土器」『考古学』第10巻第2号 東京考古学会
 83. 田中国男 「河内郡明治村多功庵寺及其の古瓦」『下野史談』第13巻第4号 下野史談会
 84. 塚原孝一ほか 1999 「東谷・中島地区遺跡群 No.1 磯岡遺跡 (I区)」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
 85. 常川秀夫・山ノ井清人 1978 「猿山 A 遺跡」栃木県住宅供給公社・栃木県教育委員会
 86. 常川秀夫・大金宜亮・石川均・熊倉直子 1979 「塚山古墳群」栃木県教育委員会
 87. 寺内武生・藤崎善之助 1939 「下野中原遺跡調査概報」『考古学』第10巻第10号 東京考古学会
 88. 栃木県史編纂委員会 1976 「栃木県史資料編考古1」栃木県
 89. 中山晋 1996 「砂田東遺跡・上横田 A」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
 90. 日産自動車株式会社 1969 「上蒲生遺跡発掘調査報告書」
 91. 野沢岩蔵 1938・39 「有史以前の針ヶ谷」『下野史談』第15巻第4号、第16巻第2号 下野史談会
 92. 八幡一郎 1930 「奥羽文化南漸資料」『考古学』第1巻第1号 東京考古学会
 93. 梁木誠 1984 「鶴舞塚古墳」宇都宮市教育委員会
 94. 梁木誠・今平利幸 1992 「下桑島西原古墳群」宇都宮市教育委員会
 95. 梁木誠 1995 「久部愛宕塚古墳・谷口山古墳・御蔵山古墳」宇都宮市教育委員会
 96. 日向野昇 1980 「多功庵寺跡」上三川町教育委員会
 97. 前澤輝政 1976 「西赤堀遺跡」上三川町教育委員会
 98. 峰岸純夫他 1982 「栃木県の中世城館跡」栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
 99. 八木莊三郎 1904 「考古学」
 100. 矢野目長達・鈴木勝・岩上照朗 1982 「栃木県重要遺跡基本資料整備事業調査報告書」栃木県教育委員会
- <その他>
101. 秋元陽光・大橋泰夫 1988 「栃木県南部の古墳時代後期の首長墓の動向－思川・田川水系を中心として－」『栃木県考古学会誌』
- 第9集 栃木県考古学会
102. 阿部昭・永村眞ほか 1993 「図説 日本の歴史9 図説 栃木県の歴史」河出書房新社
 103. 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大塚治良 1998 「栃木県の歴史」鶴山川出版社
 104. 久保哲三ほか 1990 「日本の古代遺跡44 栃木」鎌保書社
 105. 栃木県史編纂委員会 1976 「栃木県史 資料編 考古一」栃木県
 106. 栃木県史編纂委員会 1980 「栃木県史 通史編2 考古二」栃木県
 107. 栃木県史編纂委員会 1981 「栃木県史 通史編1 原始・古代一」栃木県
 108. 栃木県史編纂委員会 1984 「栃木県史 通史編3 中世」栃木県
 109. 栃木県史編纂委員会 1984 「栃木県史 通史編4・5 近世一・二」栃木県
 110. 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 1987～95 「企画展図録 第1回古墳出現期の社会 第2回前方後円墳の時代 第3回横穴式石室の世界 第4回古墳文化の終焉 第5回東国期の初期寺院 第6回古代の役所 第7回東山道の国分寺 第8回東海道の国分寺 第9回古代の集落」栃木県教育委員会
 111. 東日本埋蔵文化財研究会群馬県実行委員会 1998 「第8回 東日本埋蔵文化財研究会・群馬大会 シンポジウム豪族居館をめぐる諸問題」



第4図 周辺の遺跡

第1表 西刑部西原遺跡周辺の遺跡

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	本村遺跡	66	熊内遺跡	129	脇山原遺跡
2	隅南1丁目遺跡	67	大船遺跡	130	柿木坂遺跡・柿木坂古墳群
3	ガンセンター東遺跡	68	木田遺跡	131	東原古墳群
4	西原境遺跡	69	多功遺跡	132	西原境中塚
5	並松遺跡	70	上大領兵行内遺跡	133	さるやま城遺跡・さるやま城古墳群
6	雷電山遺跡	71	長持塚古墳	134	脇山遺跡
7	江曾島北原遺跡	72	梅岡山北遺跡	135	瑞穂野井地遺跡
8	園道遺跡	73	愛宕塚東遺跡	136	根本西台古墳群
9	江曾島北原南遺跡	74	茂原古墳群	137	桑島古墳群
10	おしめ尾遺跡	74	茂原梅岡山古墳	138	飯塚古墳
11	大房林遺跡	75	茂原大日塚古墳	139	藤原遺跡
12	城南3丁目遺跡	76	茂原愛宕塚古墳	140	南原古墳
13	城南3丁目南遺跡	77	小高遺跡	141	上横田A遺跡
14	宮の内遺跡	78	江曲遺跡	142	成願寺北遺跡
15	堀山北遺跡	79	上神主・茂原遺跡	143	大間台遺跡(小原原遺跡)
16	北若松原遺跡	80	茂原城址	144	成願寺遺跡
17	堀山古墳群	81	茂原原遺跡	145	西刑部古原原遺跡・西刑部古原原古墳群
	堀山古墳(1号墳)	82	後志部遺跡	146	西刑部西原遺跡
	堀山西古墳(2号墳)		神主古墳群	147	大間高塚群
	堀山南古墳(3号墳)		上神主茂原神社古墳(神主1号墳)	148	中道遺跡
18	一向寺院付近遺跡		上神主狐塚古墳(神主5号墳)	149	横戸遺跡
19	若松原遺跡		後志部古墳(神主7号墳)	150	中島惣塚遺跡(中島惣塚古墳群を含む)
20	二軒屋遺跡(中原遺跡)		下原古墳(神主20号墳)	151	後西塚遺跡
21	短ヶ丘団地遺跡	83	向原遺跡	152	古原原高塚群
22	西原北遺跡	84	向原南遺跡	153	磯岡北遺跡(磯岡北古墳群を含む)
23	留西遺跡	85	殿山遺跡	154	野平塚古墳群
24	十里木古墳	86	藤市遺跡	155	西沼遺跡
25	留西南遺跡	87	台内手遺跡	156	平塚原相序遺跡
26	若松原南遺跡	88	大山祇神社古墳	157	不動堂遺跡
27	綾女塚古墳	89	芋内遺跡	158	内野遺跡
28	赤宮東浦遺跡	90	上石田遺跡	159	下小塚原遺跡
29	赤の宮西1丁目遺跡	91	石田遺跡	160	東谷北浦遺跡
30	赤宮東東遺跡	92	上蒲生の古墳群	161	西赤塚遺跡・西赤塚古墳群
31	大谷田遺跡		十三塚古墳(上蒲生1号墳)	162	南浦遺跡
32	牛塚東遺跡	93	後志部東遺跡	163	高島神社・高島遺跡群
33	赤宮牛塚古墳	94	箱内遺跡	164	磯岡遺跡
34	二子塚北遺跡	95	築部遺跡	165	磯岡・西汗の古墳群
35	針ヶ谷二子塚古墳	96	大塚神社古墳群		原敷東浦愛宕塚古墳(磯岡・西汗3号墳)
36	天有原遺跡	97	下栗念仏塚遺跡	166	西赤塚東遺跡
37	島の前遺跡	98	下栗大塚古墳	167	磯岡B遺跡
38	宇都宮機器南遺跡	99	東川田城	168	西赤塚狐塚古墳(磯岡・西汗2号墳)
39	赤土山遺跡	100	菅谷遺跡	169	西赤塚南遺跡
40	多功神塚古墳群	101	赤沢遺跡	170	西田遺跡
41	富士見団地北遺跡	102	上桑島西原古墳群	171	西林ノ内遺跡
42	岡田山遺跡	103	砂田遺跡	172	上郷の古墳群
43	茂原北原遺跡	104	砂田東遺跡		愛宕神社古墳(上郷1号古墳)
44	石川坪遺跡	105	砂田南遺跡		世塚古墳(上郷2号墳)
45	富士見向山遺跡	106	砂田堤南遺跡		上郷風車塚古墳(上郷3号墳)
46	明ノ内遺跡	107	赤沢高塚群		長塚古墳(上郷D3号墳)
47	西の前遺跡	108	立野遺跡		しらみ塚古墳(上郷4号墳)
48	上原遺跡	109	稲荷塚古墳(古墳ではなく後世の塚)		上郷26・27号墳
49	前塚遺跡	110	梅岡山遺跡	173	仏沼遺跡
50	西下谷田遺跡(北原東遺跡)	111	杉村遺跡	174	瀬成寺遺跡
51	下古山北原古墳	112	東谷古墳群	175	上浦生遺跡
52	北原遺跡	113	梅岡山道路B区(原古墳群)	176	大野遺跡
53	大木遺跡	114	榎塚古墳群	177	西原遺跡
54	一本松遺跡	115	梅岡塚古墳群	178	島田遺跡
55	若林北遺跡	116	松の塚古墳	179	上三川地区の古墳群
56	上ノ原遺跡	117	双子塚古墳		八鹿塚古墳(上三川1号墳)
57	若林南遺跡	118	世塚古墳	180	上三川城址
58	大山遺跡	119	鶴岡塚古墳	181	大町遺跡
59	谷塚北遺跡	120	新谷谷遺跡	182	石井城址
60	谷塚南遺跡	121	三日月神社古墳	183	高尾神社古墳
61	東浦遺跡	122	三日月神社南古墳群	184	桑島城址
62	大山古墳群	123	十ヶ屋敷遺跡	185	根本遺跡
	五社神社古墳(大山1号墳)	124	久部深間山古墳	186	高瀬神社古墳(西木代1号墳)
	大山風車塚古墳(大山9号墳)	125	久部谷台古墳群	187	五丁免遺跡
	新田古墳(大山13号墳)	126	久部愛宕塚古墳(1号墳)	188	中瀬跡
	長塚古墳(大山D20号墳)	127	逆金仏遺跡	189	上郷遺跡
63	新田遺跡	128	石井久保田古墳群	190	五重遺跡
64	稲荷城遺跡		大久保山遺跡	191	百日月遺跡
65	堀塚遺跡		天王山遺跡		

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 調査の概要

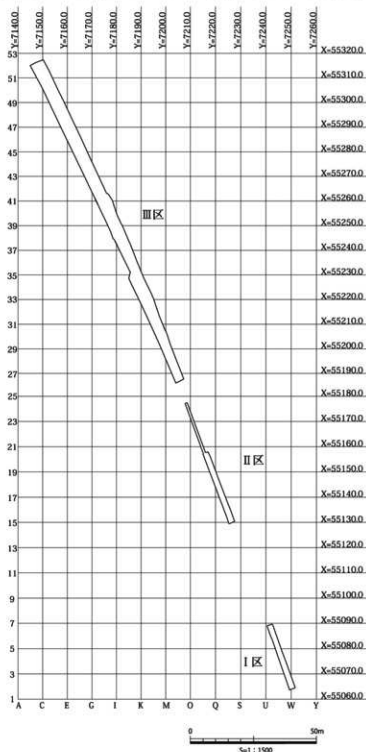
西刑部西原遺跡における今回の調査区は、インターパーク宇都宮南（東谷・中島土地区画整理事業）の開発に伴い発掘調査を行った地区の北東部分にあたる。当遺跡では、これまでの発掘調査により、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構や、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡が約130軒のほか、掘立柱建物跡などが検出されている。今回調査した各調査区の状況は以下のとおりである。

I区は調査範囲の南側に位置する。調査区は全長約27.0m、幅2.2m前後の範囲を調査した。調査区のほぼ中央にSE-1、北側端にSI-2が検出された。I区の南側とII区の間は未買収地であるため、今回は調査を行わなかったが、報告書作成中に用地買収が完了したため、栃木県教育委員会文化財課で平成22年1月21日、2月23、24日に立ち会い調査を行った。詳しくは附編：立ち会い調査の項目で述べる。

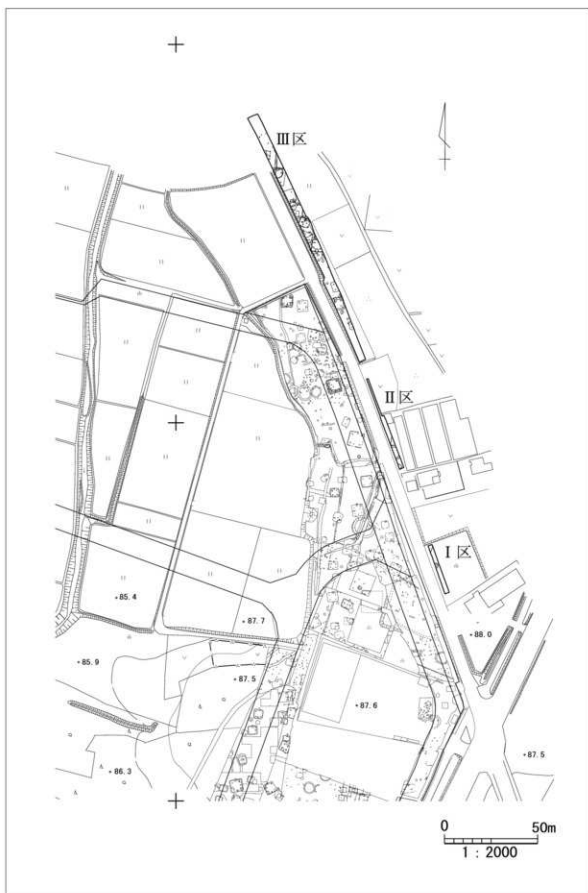
II区は調査範囲の中央から南側にかけて全長は約51.0mで、そのうち南側約30.0mは幅2.4m前後、その北側約21.0mは1m前後の幅で調査区を設定した。遺構は南側にSI-03、SI-04、SX-05が検出された。また、III区との間の箇所も1mの幅で表土除去作業を行ったが、深く擾乱を受けていることや、調査区に隣接する畑地への出入り口がなくなるため、遺構の有無の確認後埋戻しを行った。

III区は全長約142.0m、幅は広いところで約6.0m、狭いところで約3.5mの範囲を調査した。遺構の分布は中央部分に集中が見られ、南北両端は薄い。

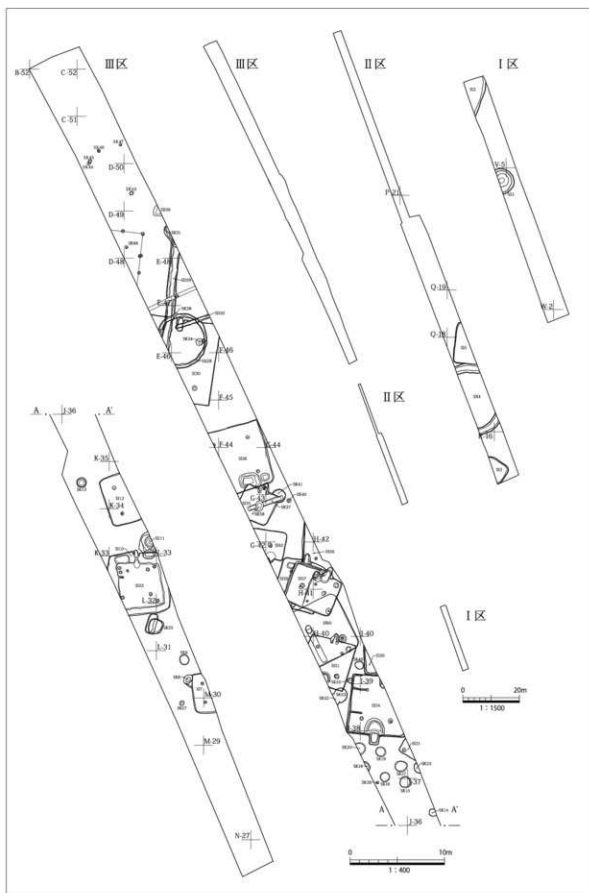
今回の発掘調査において確認できた



第5図 グリッド配置図



第6図 発掘調査箇所



第7図 遺構配置図

遺構数は、古墳時代の竪穴住居跡11軒、溝跡1条、円形周溝遺構1基、井戸跡2本、土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡3軒、土坑1基、このほか時期が特定できなかった竪穴住居跡4軒、円形周溝遺構1基、掘立柱建物跡1棟、土坑29基などである。以下に遺構毎の概要をのべたい。

第2節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は18軒検出された。遺物を伴うものは14軒である。以下、時期の古いものから述べる。

SI-12（遺構：第9図・図版二 遺物：第24、31図・第2、6表・図版一七、二六）

位置 Ⅲ区：K-33、J-33・34グリッド。南側約3mにSI-10が所在する。**規模と形状** 東側は調査区外のため全容については不明である。南北5.3m前後、深さ0.4mである。主軸はN-18°-W。**床面** 貼床が認められた。**覆土** 自然堆積の埋没過程が観察できた。**柱穴** 2本が確認できた。P-1は直径37cm、深さ41cm。P-2は直径32cm、深さ45cm。P-1とP-2の間隔は2.8mである。**出土遺物** 土器6点、礫2点が図示できた。1・2・4は床面直上で出土。6は床上8cmの高さから、3は床上5cm前後の高さから出土したものが接合した。礫は床面直上で出土している。出土遺物の特徴から4世紀末葉の時期が考えられる。

SI-21（遺構：第9図・図版一七 遺物：第24図・第2表・図版二）

位置 Ⅲ区：I・J-37グリッド。北側約0.2mにSI-24、南側約0.2mにSK-23が近接している。**規模と形状** 東西コーナーが検出されたのみで、全容については不明で、深さは40cm前後である。主軸はN-31°-E。**覆土** 自然堆積の埋没過程が観察できた。**ピット** (P-1) 北西コーナーに位置し、直径40cmの円形で、深さ60cmである。**出土遺物** 土器3点が図示できた。出土遺物の特徴から4世紀末葉の時期が考えられる。

SI-60（遺構：第9図・図版二。遺物：第24、31図・第2、6表・図版一七、二六）

位置 Ⅲ区：G-39・40、H-39・40グリッド。**重複遺構** 北側がSI-57・59と、南側がSI-51と重複しており、SI-60が一番古い竪穴住居跡である。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。南北6.4m前後、深さは0.4mである。主軸はN-26°-W。**覆土** 東西からの埋没過程が観察できた。**柱穴** 2本が確認できた。P-1は直径56cm、深さ62cm。P-2は直径81cm、深さ91cmである。P-1とP-2の間隔は3.3mである。P-2は土層断面で柱の抜き取り痕が確認できた。**炉跡** 北壁から約2.3m、東壁から約4.2mに位置し、南北94cm、東西65cmの不整な楕円形であり、焼土が若干混入している程度で、固く焼けている状況ではなかった。**出土遺物** 土器8点、礫1点が図示できた。床上20cm前後の高さの位置から出土している。1は口縁部が一部欠損しているがほぼ完形で、口縁部に対応するように2箇所、孔が開けられている。孔はいずれも焼成前に開けられている。出土遺物の特徴から4世紀末葉の時期が考えられる。

SI-36（遺構：第10図・図版二、三 遺物：第25、33図・第2、3表・図版一八）

位置 Ⅲ区：F-43・44グリッド。**重複遺構** 南側がSI-35と重複しており、SI-36が古い。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。南北約6.76mで、深さは0.2m前後である。主軸はN-15°-W。**覆土** 南側からの埋没過程が観察できた。**柱穴** 3本が確認できた。P-1は直径34cm、深さ59cm。P-2は直径40cm、深さ62cm。P-3は直径39cm、深さ69cmである。**貯蔵穴** (P-4) 南東コーナーに位置する。東西長91cm、南北長80cm、深さ33cmで、長方形を呈している。遺物が壁面や底面、周辺から出土している。**床面** 全体的に平坦で硬化面は見られない。南壁際に長方形を呈する僅かな高まりが、土手状に巡っている。東西2.2m、南北1.5m、高まりの幅40～80cm、高さは4cm前後である。中央部分の東西1.04m、南北0.62mの範囲が平坦で、住居跡の床面と同じレベルである。**出土遺物** 土器9点、玉1点が図示できた。1・5・8・9はほぼ完形に近く、2・3・4・7は破片である。6は無文の甕で口縁部を欠損している。土器は大部分が床面から数cmの位置から出土している。6は床上6cm前後の位置から出土している。玉は床上20cmの高さから出土している。出土遺物の特徴から6世紀前半の時期が考えられる。

SI-24 (遺構：第10図・図版三、四 遺物：第25、26、31、33図・第3、7表・図版一八、一九、二六、二七)

位置 Ⅲ区：H・I-38グリッド。北側にSI-50、南側にSI-21が近接している。**規模と形状** 北東コーナー側が調査区外で全容は不明であるが、東西6.1m、南北6.32m、深さ0.35m前後である。主軸はN-6°-E。覆土

ローム粒やロームブロックを多く含み、全体的にボソボソ感があるしまりの無い埋土であり、人為的に埋め戻していることが観察できた。**カマド** 北壁側に西側袖の一部が検出できた。北壁からの長さは92cmである。**柱穴** 3本が検出できた。P-1は直径31cm、深さ35cm。P-2は直径37cm、深さ51cm。P-3は直径46cm、深さ26cmである。P-1とP-2の間隔は3.1m、P-2とP-3の間隔は3.1mである。P-3では土層の断面に柱痕は確認できなかった。**貯蔵穴** 南壁中央部に張り出して掘られており、貯蔵穴の周囲には幅10cmの平坦部がある。形状は長方形で、東西0.76m、南北1.08m、床面からの深さ56cmである。土器と礫が出土している。**床面** 全体的に平坦で硬化している。貯蔵穴の北側に南側に開く馬蹄形状の高まりが検出できた。東西2.14m、南北1.7m、高まりの幅40cm前後、高さは5cm前後である。中央部分は住居跡の床面と同じレベルである。**壁溝** 北壁の中央以外には壁溝が巡っており、西壁から間仕切り状の溝が2本検出された。壁溝は幅20cm前後、深さ5cm前後で、間仕切り状の溝は北側が長さ1.4m、南側が長さ1.3mで、幅16cm前後、深さ5cmである。**出土遺物** 土師器12点、礫1点、玉1点が図示できた。1・3は内面に丁寧なミガキが、2・5・8は漆仕上げが施されている。7は内面の底面と外面底部にミガキが施されている特徴のある土器である。大部分の土器は床面直上から出土した。玉は床面直上から出土している。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SI-30 (遺構：第11図・図版四、五 遺物：第26、33図・第3表・図版一九、二七)

位置 Ⅲ区：D-46・E-45、46グリッド。**重複遺構** SD-29、SD-32、SX-28と重複している。SD-29が古く、SD-32、SX-28は新しい。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明だが、形状は正方形に近いと推定できる。南北8.6mで、水田により削平を受けており、深さは5cm前後である。カマドの位置や柱穴の間隔から東西は8.2m前後と推定される。主軸はN-10°-E。覆土 自然堆積と考えられる。**カマド** SD-32に切られている。削平により残存状態は悪いが、西側袖がわずかに残存している。袖の先端までの長さは1.44m、幅0.84mである。東袖はほとんど残っていない。**柱穴** 2本が検出できた。P-1は直径38cm、深さ40cm。P-2は直径51cm、深さ5cmである。P-1とP-2の間隔は5mである。**床面** ほぼ平坦で、貼床が認められた。**出土遺物** 土器1点、玉2点が図示できた。1は土師器でほぼ完形で、内外面とも黒色であるが、胎土も同様の色調である。玉は2点ともに滑石製の白玉である。土器、玉ともに床面に近い位置から出土した。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SI-51 (遺構：第12図・図版五、六 遺物：第26、31図・第3、4表・図版一九、二〇、二六)

位置 Ⅲ区：H-39グリッド。東側にSI-24、SI-50が近接している。**重複遺構** 北側にSI-60と、南側にSK-53と重複しており、SI-60が古く、SK-53が新しい。**規模と形状** 南西コーナー側が調査区外で全容は不明であるが、正方形で東西5.04m、南北5.06m、深さ0.3mである。主軸はN-16°-E。覆土 自然堆積の埋設過程が観察できた。**カマド** 北壁のほぼ中央に位置し、長さ0.98m、幅1.1mである。**柱穴** 3本が検出できた。P-1は直径34cm、深さ54cm。P-2は直径29cm、深さ60cm。P-3は直径52cm、深さ46cmである。P-1とP-2の間隔は2.72m、P-2とP-3の間隔は2.5mである。**貯蔵穴** (P-4) 北東コーナーに位置し、形状は不整な隅丸方形である。東西52cm、南北59cm、深さ70cmである。**床面** 全体的に平坦である。南壁際のほぼ中央に南側に開く馬蹄形状の高まりが検出できた。高まりの東西長は調査区外のため不明であるが、南北1.1m、幅30cm前後、高さは2~3cmである。中央部は床面と同じレベルである。**出土遺物** 土師器が12点、礫2点が図示できた。1・3は完形で、2・9はほぼ完形に近い。8・11は7~8割、4・5・6は4~5割の残存で、12は破片である。2床面直上、他は床面直上もしくは床面に近い位置から出土している。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SI-56 (遺構：第12図 遺物：第27図・第4表・図版二〇)

位置 Ⅲ区：G・H-41グリッド。**重複遺構** 南側がSI-57、SI-59と重複しており、SI-56が古い。**規模と形状** 東側の大部分が調査区外、南側がSI-57・59と重複しており全容は不明である。主軸はN-3°-E。覆土 自然堆積の埋没過程が観察できた。**柱穴** 1本が検出できた。P-1は直径28cm、深さ58cmである。**出土遺物** 土器1点が図示できた。土器は床上20cmの高さから出土している。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SI-59 (遺構：第13図・図版六 遺物：第27、31図・第4表・図版二〇、二六、二七)

位置 Ⅲ区：G・H-41グリッド。北西側にSI-42が近接している。**重複遺構** 南側がSI-60と、東側がSI-56、SI-57と重複している。新旧関係はSI-56、SI-60が古く、SI-57は新しい。**規模と形状** 南西側が調査区外であり全容は不明である。住居跡の大部分がSI-57と重複しているが、残存する遺構から、南北5.2mで、東西は4.7m前後と推定される。主軸はN-15°-E。覆土 自然堆積の埋没過程が観察できた。**カマド** 北壁のほぼ中央に位置している。両袖の先端はSI-57に切られており、残存する長さ1.2m、幅1.1mである。**柱穴** 3本が検出できた。P-2は直径30cm、深さ20cm。P-3は直径31cm、深さ30cm。P-5は直径23cm、深さ39cmである。P-2とP-3の間隔は2.6m、P-3とP-5の間隔は2.56mである。**貯蔵穴** (P-1) 北東コーナーに位置し、形状は隅丸長方形である。東西81cm、南北63cm、深さ42cmである。**入口ピット** (P-4) 南壁際中央に位置する。形状は不整形で東西44cm、南北45cm、深さ32cmである。**出土遺物** 土器5点、礫1点、白玉1点、石製模造品2点が図示できた。土器はそれぞれ破片である。土器1と5は床面直上で、石製模造品6は床上10cmの高さから出土。土器3・4は床面直上で出土しており、出土場所や土器の焼成胎土等から同一個体と考えられる。石製模造品7は床上5cmの高さから出土している。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SI-07 (遺構：第13図・図版六 遺物：第27、31図・第4表・図版二〇、二六)

位置 Ⅲ区：L・M-29・30グリッド。**重複遺構** 西側がSK-8と重複しており、SK-8が新しい。**規模と形状** 東側が調査区外のため全容は不明である。南北は4.24mで、床面までの深さは0.4mである。主軸はN-14°-W。覆土 南北からの自然堆積の埋没過程が観察できた。**床面** 貼床が認められた。**柱穴** 2本が確認できた。P-1は直径31cm、深さ65cm。P-2は直径32cm、深さ35cmである。P-1とP-2の間隔は2mである。**出土遺物** 土器2点、礫2点が図示できた。1は床面直上、2は床上8cm、礫8は床上13cm、礫9は床上15cmの高さからそれぞれ出土した。出土遺物の特徴から7世紀中葉の時期が考えられる。

SI-10 (遺構：第14図・図版七 遺物：第27、31、32、33、34図・第4、6、7表・図版二〇、二七)

位置 Ⅲ区：K・L-31・32グリッド。**重複遺構** 北東側がSE-11と重複しており、SE-11が新しい。**規模と形状** 北東、南西コーナーが調査区外である。建て替えによる拡張が確認できた。拡張前の規模は東西4.6m前後、南北4.34～4.8mで、拡張後の規模は東西が推定6.4m前後、南北6.5～6.7m、深さ0.24m前後である。主軸はN-9°-W。覆土 自然堆積の埋没過程が観察できた。**カマド** 拡張前の竪穴住居跡は土層断面の観察と掘方からカマドの位置が推定できた。北壁のほぼ中央に位置し、北壁を壁外に掘り込んで造られている。掘方の規模は長さ1.12m、幅0.64mである。拡張後のカマドは、北壁のほぼ中央に造られ、長さ0.84m、幅0.72mである。**柱穴** 柱穴は7本検出できた。拡張前の竪穴住居跡に伴う柱穴はP-3、P-5、P-7、P-9と考えられ、P-3は直径32cm、深さ24cm。P-5は直径35cm、深さ19cm。P-7は直径32cm、深さ29cm。P-9は直径35cm、深さ29cmである。拡張後の竪穴住居跡の柱穴はP-2、P-6、P-8で、南西の柱穴は他の柱穴の間隔から調査区外に設けられていたと考えられる。P-2は直径37cm、深さ29cm。P-6は直径34cm、深さ26cm。P-8は直径36cm、深さ21cm。それぞれの柱穴の間隔はP-3とP-5は2.9m、P-5とP-7は2.7m、P-7とP-9は3.04m、P-3とP-9は2.72m。P-2とP-6は3.68m、P-6とP-8は3.8mである。

貯蔵穴 (P-1) カマドと西壁の間に掘られている。形状は不整な長方形で、東西1.56m、南北は東側の広い

部分で0.9m、西側の狭い部分で0.76m、深さ26mである。**出土遺物** 土器8点、礫11点、砥石1点、勾玉1点、玉1点、鉄製品2点の計24点が図示できた。勾玉8と玉9は土製で、鉄製品は刀子1と鎌9である。土器1は1/2の残存で、他は破片である。1～4ともに内外面に漆仕上げが残っている。5の須恵器は佐野市三倉山窯跡で焼かれた可能性が考えられる。出土位置は、1・3・7・8は拡張前の住居跡から出土している。他は拡張後の住居跡に伴い、2はP-1の覆土中、4は覆土中から、5・6・砥石21・鉄製鎌9は床面直上、礫はほぼ床面直上で出土している。勾玉8は床上20cm、土玉9は床上18cm、刀子1は床上5cmからそれぞれ出土している。出土遺物の特徴から7世紀中葉の時期が考えられる。

SI-02 (遺構：第15図・図版七 遺物：第28図・第4表・図版二一)

位置 I区：U-6グリッド。南側6mにはSE-1が所在する。**規模と形状** 大部分が調査区外のため全容は不明である。深さは0.8mである。**覆土** 自然埋没過程が観察できた。**出土遺物** 土器4点が図示できた。1は床面直上、2は床上5～16cmの高さから出土したものが接合、3は床上28cmから出土した。4は覆土中からの出土である。1の須恵器は内外面にススの付着が見られる。産地は佐野市三倉山窯跡群の三通窯の可能性が考えられる。2は胎土に雲母が混入しており茨城県新治地方の産地の可能性が考えられる。出土遺物の特徴から8世紀後葉の時期が考えられる。

SI-57 (遺構：第16図・図版八、九 遺物：第28、29、32図・第5、7表・図版二一、二二、二三、二七、二八)

位置 III区：G・H-40・41グリッド。**重複遺構** 西側がSI-59、北側がSI-56、南側がSI-60と重複しており、SI-57が新しい。**規模と形状** 東西に長い長方形を呈し、東西5.44m、南北4.54m、深さ0.25mである。主軸はN-22°-E。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**床面** 住居跡西側の床は西壁から2.3m前後の幅で固くしまりのある貼床を施し、東側床面より約10cm高く造られている。柱穴の状況から拡張ではなく、意図的に高まりを設けたと考えられる。**壁溝** カマドから西側の北壁際と西壁際に壁溝が掘られている。東・南壁際は確認出来なかった。壁溝の規模は幅28cm、深さ2.5cmである。**カマド** 北壁の中央より若干東側に位置する。長さ1.76m、幅1.66mである。**柱穴** 2本が検出できた。P-1は直径45cm、深さ53cm。P-2は直径42cm、深さ47cm。P-1とP-2の間隔は2.56mである。**貯蔵穴** P-3がそれにあたる。円形で、直径52cm、深さ27cmあり、底面は平坦ではなく、中央に若干の高まりがみられる。その他 P-4は、P-1、P-2を結ぶ線上の中央から北に50cmの位置にある。円形で直径28cm、深さ9cm、内面が全体的に焼けたように非常に固く締まった状態である。**出土遺物** 土器20点、瓦2点、礫2点、鉄製品7点が図示できた。1は南西コーナー近くに床面から3cmの高さから、4はP-2と貯蔵穴P-3の間に床面から5cmの高さから、6は床上5cmの高さから、7は床面直上から、8は床上5cmの高さから、11・12は床上30cm前後、13は床面直上から、16は床上11～14cmからそれぞれ出土している。また、2・14・20はカマドから、10・15・18・19は貯蔵穴から、3・5・9・17・21・22は覆土中から出土している。礫22は床上4cmから出土している。礫23はカマドの東側袖の芯材である。刀子2・4は床上3cmの高さから、鉄鎌5・6・7は床面直上～3cm高さから、刀子3はカマドから、鉄釘8は覆土から出土している。各遺物の特徴や産地については、須恵器1の産地は益子窯跡群の滝ノ入、倉見沢窯跡と考えられる。土師器8は土師器の墨書土器で「十」と書かれており、内面は黒色処理が施されている。土師器12は高台付土師器で、内面は黒色処理が施され、底部には墨痕が確認できる。土師器13は高台の取り付け部分近くから割取り、孔を空けており、底部には墨痕が確認できる。12、13ともに墨痕は確認できるが研磨した痕跡は見られないので、硯としてではなく、墨を入れて二次利用したと考えられる。18・19は製塩土器である。それぞれ外面に粘土の輪積み痕があり、口縁部は薄く作られている。色調や胎土から同一個体と考えられる。21・22は丸瓦の破片である。出土遺物の特徴から9世紀中葉の時期が考えられる。

SI-35 (遺構：第15図・図版九、一〇 遺物：第29、33図・第5表・図版二四、二七)

位置 Ⅲ区：F-42・43、G-42・43グリッド。**重複遺構** 北西コーナーがSI-36、北東コーナーがSK-41、北東コーナーから南西コーナーの斜め方向にSK-37が重複している。SK-37、SK-41が新しく、SI-36は古い。**規模と形状** 南西コーナーが調査区外である。ほぼ正方形を呈し、東西3.7m、南北3.5m、深さ0.2mである。主軸はN-24°-E。**カマド** 北壁中央に位置し長さ1.36m、幅1.24mである。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**床面** 貼床が確認できた。**床下土坑** 住居跡のほぼ中央に掘られ、東西0.78m、南北1.13m、床面からの深さ0.4mである。覆土はロームブロックが多く混入し、しまりが無く、人為的に埋め戻され、その上に貼床が施されている。**出土遺物** 土器1点、石製紡錘車1点が図示できた。1は床上4cmの高さから、紡錘車10は床上7cmの高さから出土した。1は須恵器の高台付皿で、約1/2の残存である。高台の作りには特徴があり、回転糸切りの後、高台を貼り付けるのではなく、高台内側から工具を押し当て造り出していると考えられる。内面中央部は使用による磨きが顕著で、わずかに墨痕が見られるため、硯として使用した事が考えられる。胎土や焼成から埼玉県南比企地方が産地の可能性が高い。出土遺物の特徴から9世紀中葉から後葉の時期が考えられる。

SI-03 (遺構：第17図・図版一〇)

位置 Ⅱ区：Q-15、R-15グリッド。北側2.5mにSX-4が存在する。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。調査区際で、壁面に若干の彎曲が見られることから、現状よりわずかに大きい規模であると推定できる。推定値は東西2.1m前後、南北2.6m前後であり、深さは0.56mである。主軸はN-34°-E。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**その他** カマド、柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。また、遺物の出土も無かった。

SI-05 (遺構：第17図・図版一〇)

位置 Ⅱ区：Q-17・18グリッド。**重複遺構** 南側がSX-4と重複しており、SX-4が新しい。**規模と形状** 東側が調査区外のため全容は不明である。西壁の北側の調査区際で、コーナーが確認出来ることから、南北は推定4.4m前後であり、深さは0.45mである。主軸はN-1°-W。**覆土** 北からの自然埋没の過程が観察できた。**その他** カマド、柱穴、貯蔵穴は検出出来なかった。また、遺物の出土も無かった。

SI-42 (遺構：第13図・図版一〇、一一)

位置 Ⅲ区：F-41・42、G-41・42グリッド。東側にSI-59が近接し、北側0.5mにSI-35が存在する。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。南北2.98m、深さは0.1mである。主軸はN-10°-E。**カマド** 南壁の東側コーナー寄りに位置している。袖等は残存していないが、袖に使用されたと考えられる粘土と焼土が確認できた。長さ1.15mである。**覆土** 自然埋没の過程が観察できた。**柱穴** 1本検出できた。P-1は直径44cm、深さ35cmである。**遺物** 出土していない。

SI-50 (遺構：第17図・図版一一)

位置 Ⅲ区：I-39グリッド。南側にSI-24が近接し、西側0.5mにSI-51が存在する。**規模と形状** 東側大部分が調査区外のため全容は不明である。**覆土** ローム粒やロームブロックが多く混入した埋土で、ボソボソとしまりが無く、人為的に埋め戻したと観察できる。**床面・壁面** 埋土にしまりが無いため、床面、壁面ともに埋土がきれいにはがれた。**壁溝** 幅24cm前後、深さ5cm前後で、底面に工具痕が残っていた。**遺物** 覆土中から鉄釘が2点出土している。**その他** カマド、柱穴、貯蔵穴は検出出来なかった。

第3節 溝跡

SD-29 (遺構：第19図・図版一一 遺物：第29図・第5、7表・図版二四、二八)

位置 Ⅲ区：D-46・47、E-46・47・48グリッド。**重複遺構** 南側にSX-28、SI-30と、北側にSK-31と重複している。各遺構との新旧関係はSD-29が古い。**規模と形状** 東西共に調査区外のため全容は不明である。

幅0.92m前後、深さ0.35m前後、調査区内の長さは10.2mである。後述するSB-33とは並行して掘られていた。覆土 自然堆積。出土遺物 土器5点、玉4点、石製模造品3点が図示できた。出土遺物の特徴から4世紀後葉の時期が考えられる。

SD-32 (遺構第19図・図版一一)

位置 Ⅲ区：E-45グリッド。重複遺構 西側がSI-30、SX-28と重複している。新旧関係はSD-32が新しい。

規模と形状 東側が調査区外のため全容は不明である。幅0.42m前後、深さ0.12m前後、調査区内の長さは3.82mである。覆土 自然堆積。遺物 出土していない。

第4節 井戸跡

SE-11 (遺構：第18図・図版一二 遺物：第29図・第6表・図版二四)

位置 Ⅲ区：K-33グリッド。重複遺構 南側がSI-10と重複し、SE-11が新しい。規模と形状 東側が調査区外のため全容は不明である。平面形は不整形で南北2.88m、井戸の部分は直径0.54m、旧地表面からの深さ1.54mである。南側に付属すると考えられる土坑があり、東西1.24m、南北1.0mである。遺構は確認面から斜めに掘られ、壁際には溝状に外周1.86mの溝状の掘り込みが円形に周り、井戸の周囲は幅20～35cmのドーナツ状に高まりをもち、井戸は垂直に掘り込まれている。底面は平坦である。覆土 自然堆積。出土遺物 土器が1点、礫2点が図示できた。土器は重複しているSI-10から出土している土器と同時期であり、SI-10から混入したことも考えられる。出土遺物の特徴から7世紀後葉の時期が考えられる。

SE-01 (遺構第18図・図版一二 遺物：第30、32図・第6、7表・図版二五、二八)

位置 I区：U-4、V-4グリッド。規模と形状 西側が調査区外のため全容は不明である。確認面の形状は円形で、直径2.44mである。確認面から斜めに掘られ、平坦部が造られる。平坦部の外周は直径2.22m、幅は0.6m前後で、直径1.04mでほぼ垂直に掘られている。覆土 自然堆積。出土遺物 土器12点、白玉2点が図示できた。遺物は堆積土第3層の下層に集中して出土している。4は口縁部から頸部の残存で益子窯跡群が産地と考えられる。5は大甕の口縁であるが、産地は不明である。7は須恵器の蓋の転用で、つまみの部分が削られ磨かれている。9は口縁部内面に布目の痕跡が見られる。産地は益子窯跡群と考えられる。12は瓶の破片である。外面に丸いへら記号が記されている。産地は益子窯跡群と考えられる。出土遺物の特徴から7世紀後葉の時期が考えられる。

第5節 掘立柱建物跡

SB-33 (遺構第19図・図版一三)

位置 Ⅲ区：C-48、D-47・48グリッド。規模と形状 西側が調査区外のため全容は不明である。柱穴は4基検出した。P-1は直径35cm、深さ43cm。P-2は直径34cm、深さ36cm。P-3は直径42cm、深さ50cm。P-4は直径29cm、深さ37cmである。各柱穴の間隔はP-1とP-2は2.12m、P-2とP-3は2.37m、P-3とP-4は1.78mである。覆土 自然堆積、柱痕は確認出来なかった。出土遺物 遺物は出土していない。

第6節 円形周溝遺構

SX-28 (遺構第20図・図版一一、一二)

位置 Ⅲ区：E-45、D-45・46グリッド。重複遺構 SI-30、SD-32、SD-29と重複している。新旧関係は、SI-30、SD-29が古く、SD-32は新しい。規模と形状 西側が調査区外のため全容は不明である。また、水

田の耕作のため削平を受けており、残存状態は悪い。円形で周溝の外周で直径5.65m、溝の幅0.40～0.45m前後、深さ0.2mである。**覆土** 自然堆積。**出土遺物** 土器が1点図示できた。出土遺物の特徴から6世紀後葉の時期が考えられる。

SK-04 (遺構第20図・図版一二、一三)

位置 II区：Q-17・18、R-17・18グリッド。**重複遺構** 北側がSI-5と重複しており、SI-5が古い。**規模と形状** 東西共に調査区外のため全容は不明であるが、円形を呈すると推測できる。調査した範囲で周溝の外周で直径7.74m、溝の幅0.82m前後、深さ0.88～1.05mである。**覆土** 自然堆積。**出土遺物** 遺物は出土していない。

第7節 土坑

SK-25からは須恵器の坏、SK-47からは玉が出土している。他の土坑からの遺物の出土はない。

SK-08 (遺構第21図)

位置 III区：L-30グリッド。**重複遺構** 東側がSI-7と重複し、SI-7が新しい。**規模と形状** 長径1.09m、短径0.78m、深さ0.86m。楕円形。**覆土** 自然堆積。

SK-09 (遺構第21図・図版十三)

位置 III区：L-30グリッド。**規模と形状** 直径1.09m、深さ0.2m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-13 (遺構第21図・図版十三、十四)

位置 III区：J-34グリッド。**規模と形状** 直径1.05m、深さ0.57m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-14 (遺構第21図・図版十四)

位置 III区：J-36グリッド。**規模と形状** 東側が調査区外のため全容は不明である。南北0.78m、深さ0.12m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-15 (遺構第21図・図版十四)

位置 III区：I・J-36グリッド。**規模と形状** 直径1.2m前後、深さ0.18m。不整円形。**覆土** 自然堆積。

SK-16 (遺構第21図・図版十四)

位置 III区：I-36・37グリッド。**規模と形状** 直径1.0m、深さ0.13m。円形。**覆土** 自然堆積

SK-17 (遺構第21図・図版十四、十五)

位置 III区：I-37グリッド。**規模と形状** 長径1.34m、短径1.11m、深さ0.25m。楕円形。**覆土** 自然堆積。

SK-18 (遺構第21図・図版、十五)

位置 III区：I-37グリッド。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。直径1.06m、深さ0.51m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-19 (遺構第21図・図版、十五)

位置 III区：I-37グリッド。**規模と形状** 直径1.1m、深さ0.25m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-20 (遺構第22図・図版、十五)

位置 III区：H・I-37グリッド。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。直径1.23m、深さ0.43m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-23 (遺構第22図・図版、十五)

位置 III区：J-37グリッド。**規模と形状** 東側が調査区外のため全容は不明である。直径1.2m、深さ0.36m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-25 (遺構：第18図、遺物：第29図)

位置 Ⅲ区：K・L-31グリッド。**規模と形状** 遺構確認面での形状は楕円形で、南北1.62m、東西1.48mを測る。確認面から深さ0.8mで平坦部をもち、西側にオーバーハングして掘り込まれている。オーバーハングしている部分の形状は長方形で、南北2.16m、東西1.0m深さ1.17mである。東壁から西壁奥まで1.74m、南壁から北壁奥まで2.1mである。**覆土** 全体的にしまりが弱く、人為的な埋め戻しと考えられる。**遺物** 須恵器坏2点が図示できた。2点とも第7層からの出土である。1は墨書土器で「須理」と読める。ロクロ成形で、底部は回転ヘラ切り後ヘラ記号が施されている。2はロクロ成形、回転ヘラ切りである。2点とも産地は益子と考えられる。出土遺物の特徴から9世紀中葉から後葉の時期が考えられる。

SK-26 (遺構第22図)

位置 Ⅲ区：J-36グリッド。**規模と形状** 直径0.3m、深さ0.5m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-27 (遺構第22図)

位置 Ⅲ区：L-29グリッド。**規模と形状** 長径0.52m、短径0.46m、深さ0.83m。楕円形。覆土 自然堆積。

SK-31 (遺構第22図)

位置 Ⅲ区：D・E-48グリッド。**重複遺構** SD-29と重複、SD-29が古い。**規模と形状** 長径2.7m、深さ0.65m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-34 (遺構第22図・図版、十五)

位置 Ⅲ区：E-46グリッド。**重複遺構** SI-30のP-1と重複、P-1が新しい。**規模と形状** 直径0.79m、深さ0.31m。円形。覆土 自然堆積。

SK-37 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：F・G-42グリッド。**重複遺構** SI-35、SK-41と重複。SK-37が新しい。**規模と形状** 長径3.88m、短径0.49m、深さ0.68m。長方形。覆土 自然堆積。

SK-38 (遺構第22図)

位置 Ⅲ区：E-46グリッド。**重複遺構** SX-28、SD-29と重複している。SK-38が新しい。**規模と形状** 直径0.45m、深さ0.26m。円形。覆土 自然堆積。

SK-39 (遺構第22図)

位置 Ⅲ区：D-48・49グリッド。**規模と形状** 径1.18m、深さ0.37m。不整形 覆土 自然堆積。

SK-40 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：G-42グリッド。**規模と形状** 直径0.45m、深さ0.5m。円形。覆土 自然堆積。

SK-41 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：G-42・43グリッド。**重複遺構** SI-35、SK-37と重複、SI-35、SK-37が新しい。**規模と形状** 直径1.42m、深さ0.2m。円形。覆土 自然堆積。

SK-43 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：D-49グリッド。**規模と形状** 長径0.44m、短径0.37m、深さ0.15m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-44 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：C-50グリッド。**規模と形状** 直径0.3m、深さ0.08m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-45 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：C-50グリッド。**規模と形状** 直径0.35m、深さ0.13m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-46 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：C-50グリッド。**規模と形状** 長径0.39m、短径0.26m、深さ0.22m。不整形。覆土 自然堆積。

SK-47 (遺構第23図・遺物第33図)

位置 Ⅲ区：C-50グリッド。**規模と形状** 直径0.28m、深さ0.5m。円形。**覆土** 自然堆積。**遺物** 覆土中から玉が1点出土している。

SK-48 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：D-48グリッド。**規模と形状** 直径0.34m、深さ0.5m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-49 (遺構第23図・図版十六)

位置 Ⅲ区：H・I-39グリッド。**規模と形状** 長径0.97m、短径0.85m、深さ0.36m。不整円形。**覆土** 自然堆積。

SK-52 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：H-38グリッド。**重複遺構** 東側がSK-53と重複、SK-53が新しい。**規模と形状** 西側が調査区外のため全容は不明である。直径1.24m、深さ1.11m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-53 (遺構第23図)

位置 Ⅲ区：H-38グリッド。**重複遺構** 西側がSK-52と北側がSI-51と重複、SK-53が新しく、SI-51との新旧関係は不明である。**規模と形状** 直径1.47m、深さ1.17m。円形。**覆土** 自然堆積。

SK-55 (遺構第23図・図版十六)

位置 Ⅲ区：H-39グリッド。**規模と形状** 長径0.63m、短径0.54m、深さ0.18m。円形。**覆土** 自然堆積。

第8節 その他の遺物

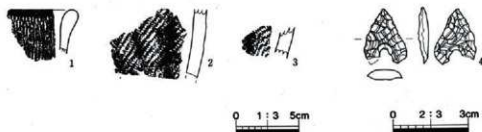
縄文時代の遺物 (第8図・図版二八)

SI-10の覆土中から縄文土器3点、SD-29の覆土中から石礫1点が出土している。

1は縄文時代早期前半の燃糸文系(夏島式)の土器で、口縁部の破片である。地文は口縁の上端まで施文をほどこし、2段RLを斜め方向に施文している。2は縄文時代中期(大木式系)の胴部破片で、地文は2段RLを縦方向に間隔を空け施文してある。3は縄文時代中期(大木式系)の胴部破片で、地文は2段RLを縦方向に施文してある。小片のため不明瞭だが、間隔施文の可能性はある。4は黒曜石製の石礫で、長さ22.1mm、幅16.7mm、厚さ3.4mm、重さ1.01gである。

土玉 (第33図21・図版二七)

SI-51・60にかかる試掘調査のトレンチの精査作業で出土した。最大径25.05mm、最大長31.44mm、最大孔径4.45mm、最小孔径2.79mm、重さ12.61gである。このような玉が出土する時期からすると、SI-51の出土遺物と考えられる。



第8図 縄文時代の遺物

第4章 まとめ

発掘調査箇所は限られた範囲ではあるが、18軒の竪穴住居跡の他、遺物の伴う遺構などを検出することができた。以下、調査成果をまとめる。

①確認された遺構の変遷を整理すると、次のようにまとめることができる。

4世紀末葉：SI-12・21・60、SD-29 (SB-33)

6世紀前半：SI-36

6世紀後葉：SI-24・30・51・56・59、SX-28

7世紀中葉：SI-7・10、SE-11

7世紀後葉：SE-1

8世紀後葉：SI-2

9世紀中葉：SI-57

9世紀中葉から後葉：SI-35、SK-25

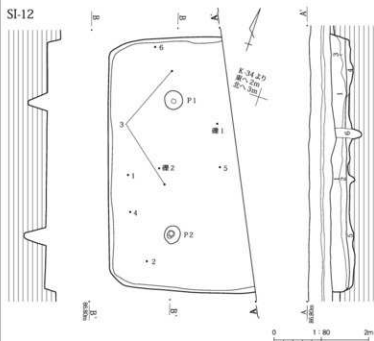
②東谷・中島地区遺跡群の西刑部西原遺跡の発掘調査では、6世紀代から集落が営まれ、7世紀代から9世紀代にかけての時期が主体の集落跡であることが確認されており、それ以前の遺構は確認されていない。今回の調査も大部分の遺構が同時期のものであるが、これまでに検出がなかった4世紀末葉の遺構が新たに確認できたことが成果としてあげられる。遺構は溝（SD-29）1条、竪穴住居跡（SI-12・21・60）3軒がⅢ区で確認できた。SD-29は全容が不明であるが、主軸はほぼ磁北に沿った南北方向である。調査した中央付近から白玉や石製模造品が多く出土している。遺構の西側約3mにはSB-33が存在している。SB-33は遺物が出土していないため時期は不明である。二つの遺構は平行して造られていることから、同時期の遺構である可能性が考えられる。3軒の竪穴住居跡はSD-29の南東に位置している。4世紀代の遺構は、広範囲に発掘調査を行った東谷・中島地区遺跡群においても、立野遺跡の5区SI-14で確認されたのみであり、西刑部西原遺跡を含めた周辺地域では、4世紀代には集落は営まれていなかったことが指摘されていた。今回の調査結果により、規模は不明であるが4世紀の末葉には西刑部西原遺跡のなかに堀立柱建物跡を含む住居跡群が形成されていたことが判明した。

③本遺跡出土の須恵器は益子窯跡群の製品が多いが、三養窯跡群や新治窯跡の製品が少量であるが確認されている。また、SI-35出土の須恵器は県内での出土例が無い。形状や胎土・焼成等から埼玉県の南比企窯跡群の製品である可能性が高い。

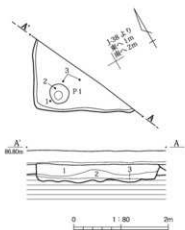
参考文献

内山敏行編2005東谷・中島地区遺跡群5「立野遺跡」栃木県教育委員会、(財)とちぎ生涯学習文化財団

SI-12



SI-21

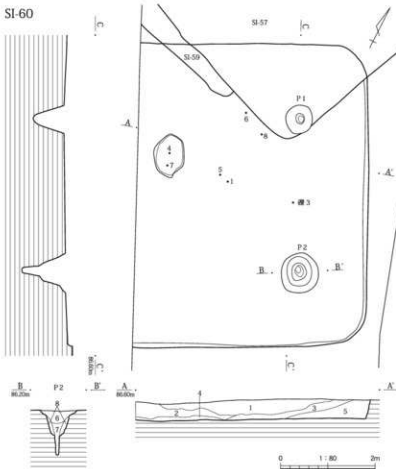


第1層:黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒を微量に含む
 第2層:黒褐色土層 ローム粒子を多量に含む
 第3層:黄褐色土層 ローム粒(大豆)を多量に含む

第1層:明黄褐色土層 ローム粒・焼土粒を微量に含む、しりあり
 第2層:明黄褐色土層 小豆大のロームを含む
 第3層:明黄褐色土層 第3層より小豆大のロームを多く含む

第4層:黄褐色土層 ローム粒(大豆大)のブロックを多く含む、もろく、粘性なし
 第5層:黄褐色土層 ローム・ローム粒を多量に含む、部分的に黒色土あり(凝り残層)
 第6層:黒褐色土層 腐乱

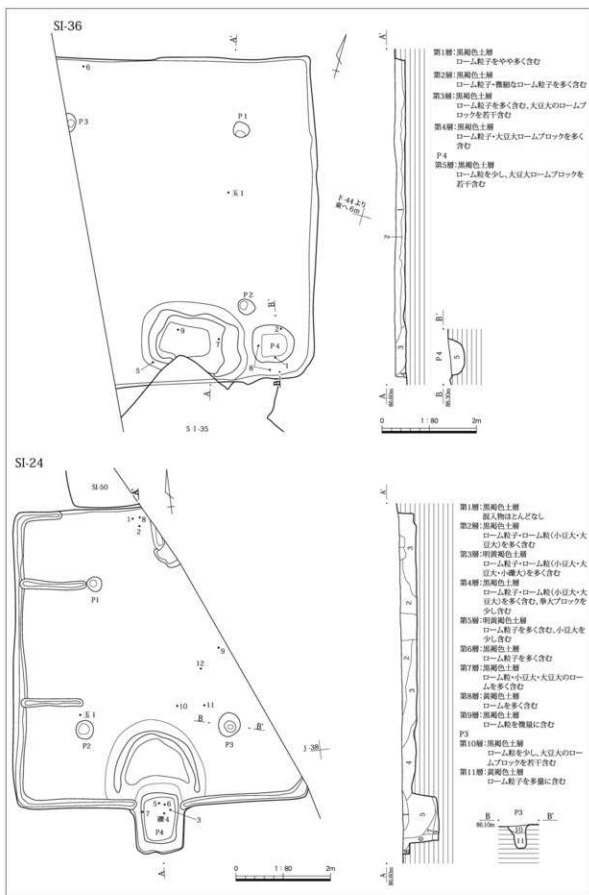
SI-60



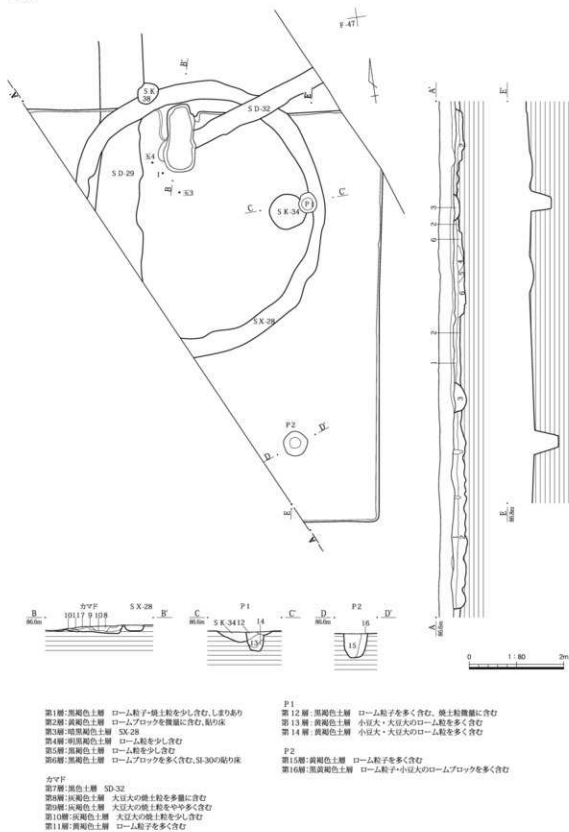
第1層:黒褐色土層 ローム粒を全面に多く含む、小豆大のロームを少し含む
 第2層:暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少し含む
 第3層:黒褐色土層 ローム粒子を全面に多く含む、小豆大・大豆大のロームを少し含む
 第4層:黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒を微量に含む
 第5層:明黄褐色土層 ローム粒(小豆・大豆大)を全面に多く含む

P2
 第6層:黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒を微量に含む
 第7層:黒褐色土層 ローム粒を多く含む、しりあり
 第8層:黄褐色土層 ローム粒を多量に含む、しりあり

第9図 遺構実測図(1)



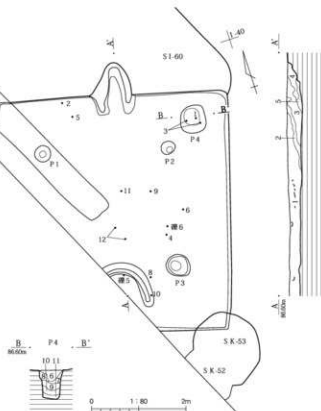
第10図 遺構実測図(2)



第11図 遺構実測図(3)

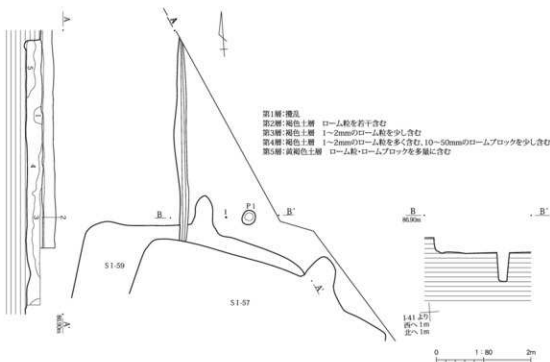
SI-51

- 第1層:黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を全面に少量含む
 第2層:明褐色土層 ローム粒子を多量に含む。焼土粒子を少し含む。しまり強い
 第3層:黄褐色土層 全体がローム粒・粘土により構成
 第4層:黄褐色土層 焼土粒・焼土ブロックを多量に。ローム粒子・焼土を多量に含む。一部に黒褐色土を含む
 第5層:黄褐色土層 焼土粒を少し含む。焼土ブロックを少し含む
 P4
 第6層:黒褐色土層 小豆大のローム粒・焼土粒を少し含む
 第7層:灰褐色土層 小豆大のローム粒・焼土粒を多く含む
 第8層:灰褐色土層 小豆大のローム粒・焼土粒をやや多く含む
 第9層:黄褐色土層 ローム粒・ロームブロック中心、大豆大の焼土粒を多く含む。ボソボソし、しまりなし
 第10層:灰褐色土層 灰・ローム粒・焼土粒を多く含む。ボソボソし、しまりなし。粒は大きめ
 第11層:灰褐色土層 1mm前後の灰・ローム粒・焼土粒を多く含む。しまりなし



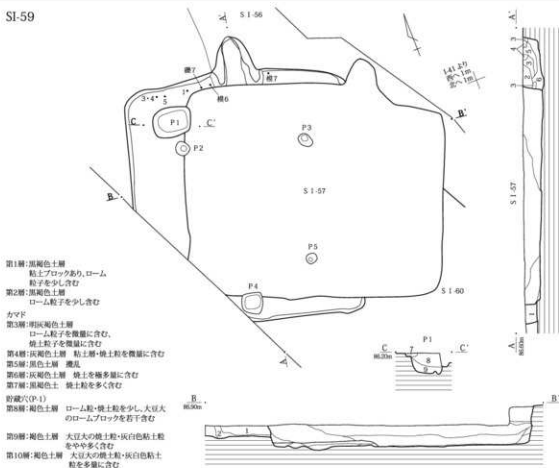
SI-56

- 第1層:埋込
 第2層:褐色土層 ローム粒を若干含む
 第3層:褐色土層 1~2mmのローム粒を少し含む
 第4層:褐色土層 1~2mmのローム粒を多く含む。10~50mmのロームブロックを少し含む
 第5層:黄褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に含む

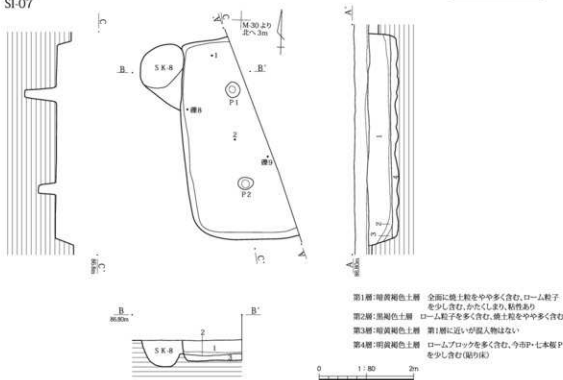


第12図 遺構実測図(4)

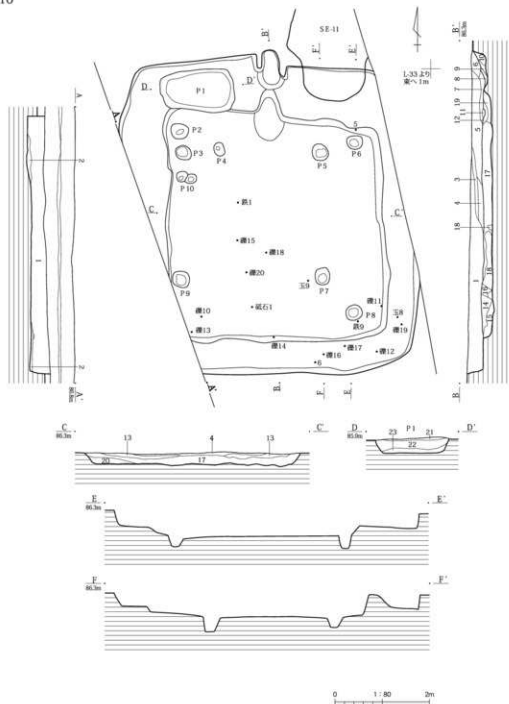
SI-59



SI-07



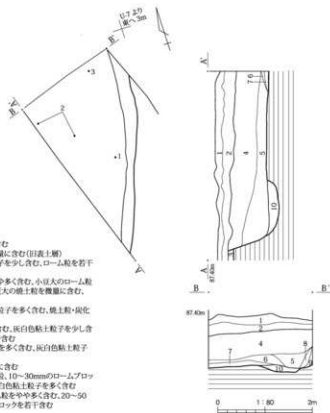
第13図 遺構実測図(5)



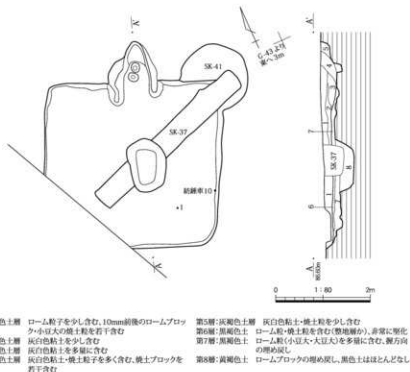
- 第1層:暗黄褐色土層 焼土粒を全面に少量含む、部分的に今市Pを微量に含む、かたまりあり、粘性あり
 第2層:暗黄褐色土層 黄砂層と同じ、下部に今市P・七本坂Pを少量含む
 第3層:褐色土層 小豆大の焼土粒を若干含む
 第4層:灰褐色土層 小豆大の焼土粒・微細な灰白色粘土粒子を多く含む、小豆大のローム粒を少し含む
 第5層:灰褐色土層 ローム粒を少し含む、小豆大の焼土粒をやや多く含む、灰白色粘土粒子を多く含む
 第6層:灰褐色土層 大豆大の焼土粒・微細な粘土粒子・10mm前後の粘土ブロックを多く含む
 第7層:灰褐色土層 粘土粒・焼土粒を多量に含む
 第8層:赤褐色土層 焼土層
 第9層:灰褐色土層 粘土粒子を多量に含む、焼土粒をやや多く含む
 第10層:褐色土層 粘土粒子・焼土粒を若干含む
 第11層:赤褐色土層 焼土層
 第12層:灰褐色土層 粘土粒子を少し含む
 第13層:暗褐色土層 今市P・七本坂Pを微量に含む
 第14層:黒褐色土層 黒色土・褐色土が中心
 第15層:褐色土層 黒色土を少し含む、しまり強い
 第16層:褐色土層 今市Pを微量に含む
 第17層:褐色土層 粘土粒・焼土粒を少し含む、しまり強い
 第18層:暗褐色土層 焼土粒を微量に含む、しまり強い、今市P・七本坂Pを若干含む
 第19層:黄褐色土層 ローム粒を多量に含む、今市P・七本坂Pを若干含む
 第20層:褐色土層 今市Pを微量に含む
 第21層:灰褐色土層 粘土粒・焼土粒・灰化物を少し含む
 第22層:黒褐色土層 焼土粒を含む
 第23層:黒褐色土層 ロームブロックを多く含む

第14図 遺構実測図(6)

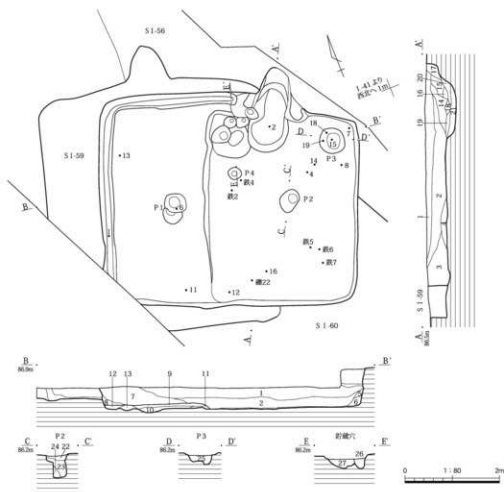
SI-02



SI-35



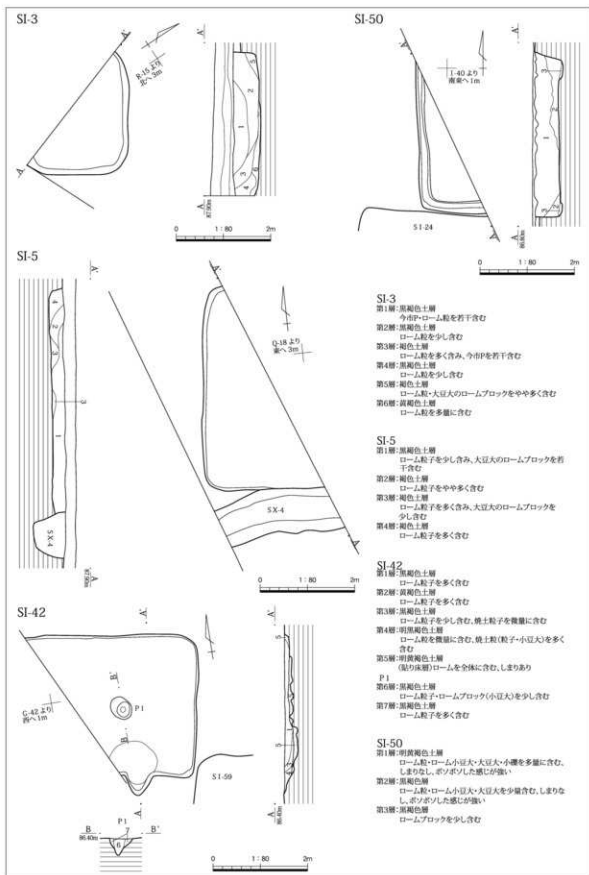
第15図 遺構実測図(7)



- 第1層:褐色土層 焼土粒をやや多く、小豆大の炭化物を若干含む
 第2層:褐色土層 小豆大の焼土粒を若干含む、小豆大の炭化物をやや多く含む、ローム粒を少し含む
 第3層:褐色土層 小豆大の焼土粒・ローム粒を若干含む
 第4層:褐色土層 大豆大の焼土粒・灰褐色粘土粒を多く含む
 第5層:褐色土層 ローム粒子を若干含む
 第6層:褐色土層 ローム粒子を少し含む
 第7層:褐色土層 小豆大の焼土粒、ローム粒子を若干含む
 第8層:褐色土層 ローム粒子を少し含む
 第9層:黄褐色土層 ローム粒を多量に含む、しまり強い
 第10層:褐色土層 小豆大のローム粒を少し含む、しまり強い
 第11層:褐色土層 小豆大のローム粒を若干含む
 第12層:褐色土層 ローム粒子を少し含む
 第13層:褐色土層 小豆大のローム粒を少し含む、しまり強い
 第14層:黄褐色土層 微細なローム粒を多量に含む、小豆大のローム粒・焼土粒を少し含む
 第15層:黄褐色土層 ローム・小豆大の焼土粒を若干含む
 第16層:黄褐色土層 ローム主体・小豆大の焼土粒を若干含む
 第17層:灰褐色土層 ローム粒・焼土粒を多く含む

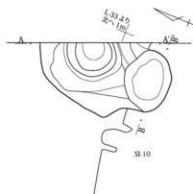
- 第18層:暗褐色土層 焼土粒・ローム粒を少し含む
 第19層:暗褐色土層 微細なローム粒子を多く含む、焼土粒・ローム粒を少し含む
 第20層:灰褐色土層 灰を多量に含む、焼土粒を少し含む、粘土性なし
 第21層:褐色土層 小豆大のローム粒を少し、30～50mmのロームブロックを若干含む
 P2
 第22層:灰褐色土層 ローム粒・焼土粒を少し含む
 第23層:灰褐色土層 10～20mmのロームブロックを若干含む、ローム粒を多量に含む
 第24層:灰褐色土層 ロームブロック・ローム粒を多量に含む
 P3
 第25層:灰褐色土層 小豆大の焼土粒・炭化物を若干含む
 P5
 第26層:灰褐色土層 小豆大のローム粒を多く含む、小豆大の焼土粒・炭化物を少し含む
 第27層:灰褐色土層 小豆大のローム粒・焼土粒を多く含む、10mm前後のロームブロック・炭化物を若干含む

第16図 遺構実測図(8)

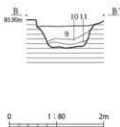
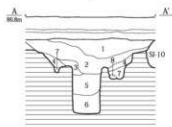


第17図 遺構実測図(9)

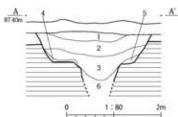
SE-11



- 第1層:黒褐色土層 小豆大のローム粒・焼土粒を微量に含む
 第2層:褐色土層 ローム粒子・小豆大のローム粒・焼土粒を少し含む
 第3層:灰褐色土層 焼土粒・灰白色粘土粒を少し含む
 第4層:褐色土層 ローム粒子・焼土粒を少し含む
 第5層:黒褐色土層 ローム粒子を少し含む
 第6層:黒褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多く含む
 第7層:褐色土層 ローム粒子を若干含む
 第8層:黒褐色土層 砂粒を多く含む
 第9層:黒褐色土層 粘土粒(粘土・小豆大)を多く含む、焼土粒・炭少し含む
 第10層:黒褐色土層 粘土粒多く含む
 第11層:黒褐色土層 ロームブロックを多く含む

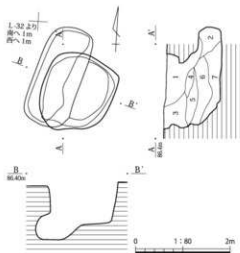


SE-1



- 第1層:黒褐色土層 微細なローム粒子を少し含む、小豆大のローム粒を若干含む
 第2層:黒褐色土層 微細なローム粒子を若干含む
 第3層:黒褐色土層 ローム粒子を少し含む、土層・礫を多く含む、粘性、しまりあり
 第4層:黒褐色土層 ローム粒を多く含む、2~10mmのローム・ブロックを若干含む、砂をやや多く含む、粘性、しまりややあり
 第5層:黒褐色土層 ローム粒を多く含む
 第6層:黒褐色土層 小豆大のローム粒を多く含む、10mm前後のロームブロックを若干含む、粘性あり、しまり強い

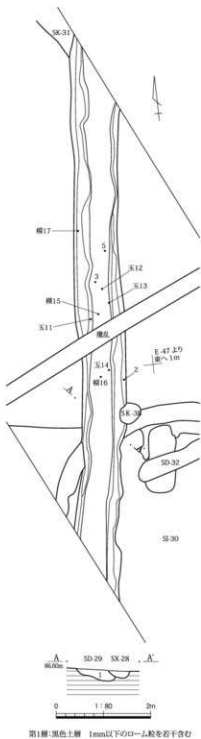
SK-25



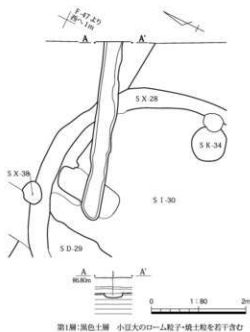
- 第1層:褐色土層 ローム粒をやや多く含む、10~30mmのロームブロックを若干含む
 第2層:黒褐色土層 1~10mmのローム粒・ロームブロックをやや多く含む
 第3層:褐色土層 ローム粒子を多く含む、10~50mmのロームブロックを含む
 第4層:褐色土層 ローム粒子を多く含む
 第5層:褐色土層 ローム粒を多く含む、10~50mmのロームブロックを多量に含む、しまりなし
 第6層:灰褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に含む、ボンボソ、しまりなし
 第7層:灰褐色土層 第5層より褐色土が多い

第18図 遺構実測図(10)

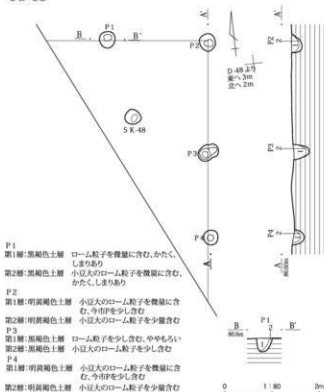
SD-29



SD-32

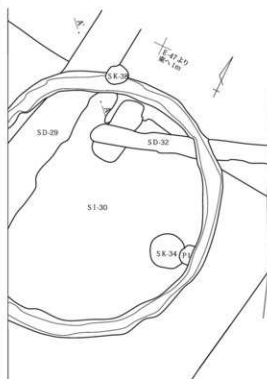


SB-33



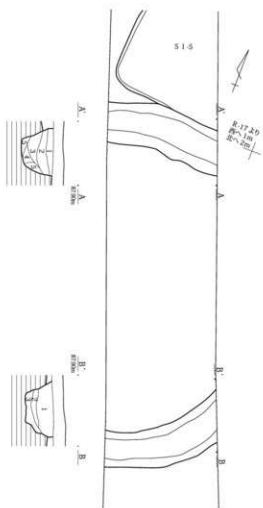
第19図 遺構実測図(11)

SX-28



第1層:黒色土層 1~5mmのローム粒を若干含む

SX-4



- 第1層:褐色土層
ローム粒・今市P・七本松Pを若干含む
- 第2層:黒褐色土層
ローム粒・今市P・七本松Pを若干含む
- 第3層:黒褐色土層
ローム粒をやや多く含む
- 第4層:黒褐色土層
ローム粒を多く、10mm前後のロームブロックを若干含む
- 第5層:黄褐色土層
ローム粒を多量に含み、10mm前後のロームブロックを少し含む

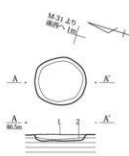
第20図 遺構実測図(12)

SK-8



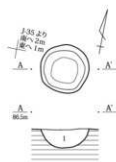
- 第1層：黒褐色土層
焼土粒・ローム粒を微量に含む
第2層：明黄褐色土層
ローム粒を多量に含む

SK-9



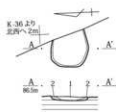
- 第1層：暗黄褐色土層
ローム粒子を微量に含む。粘性あり
第2層：明黄褐色土層
炭入跡なし

SK-13



- 第1層：暗黄褐色土層
ローム粒子を微量に含む。粘性強い

SK-14



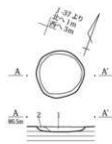
- 第1層：明黄褐色土層
ローム粒子を微量に含む。粘性強い
第2層：明黄褐色土層
ロームを多量に含む

SK-15



- 第1層：明黄褐色土層
ローム粒子を微量に含む。粘性強い
第2層：明黄褐色土層
ロームを多量に含む

SK-16



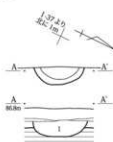
- 第1層：明黄褐色土層
ローム粒子を微量に含む。粘性強い
第2層：明黄褐色土層
ロームを多量に含む

SK-17



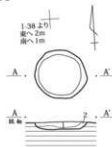
- 第1層：黒褐色土層
ローム粒子を少量含む、しまりなし

SK-18



- 第1層：黒褐色土層
ローム粒子・焼土粒を微量に含む、しまりあり

SK-19

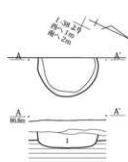


- 第1層：黒褐色土層
ローム粒子を微量に含む
第2層：黒褐色土層
ロームブロック（大豆大）を少量含む

0 1:80 2m

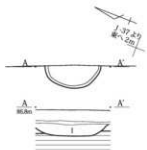
第21図 遺構実測図(13)

SK-20



第1層：黒褐色土層
ローム粒子・焼土粒子を少量
含む。しまり、粘性あり

SK-23



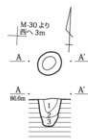
第1層：黒褐色土層
ローム粒子・焼土粒子を微量
に含む。しまりあり

SK-26



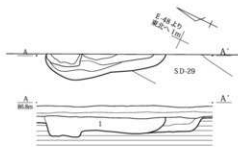
第1層：黒褐色土層
ローム粒子を含む。
しまりあり

SK-27



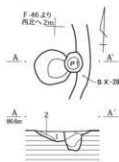
第1層：黒褐色土層
焼土粒を少し含む。
粘土粒を多く含む
第2層：明黄褐色土層
焼土粒を少し含む。
粘土粒を少し含む
第3層：明黄褐色土層
ローム粒子をやや
多く含む

SK-31



第1層：黒褐色土
ローム粒子・ローム粒（小豆大）を少量含む。しまりなし

SK-34



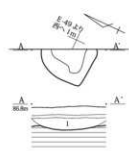
第1層：明黄褐色土層
小豆大、大豆大ローム粒
を多く含む
第2層：黄褐色土層
ロームブロック層

SK-38



第1層：黒褐色土層
ローム粒子を微量に
含む。かたく。しま
りあり

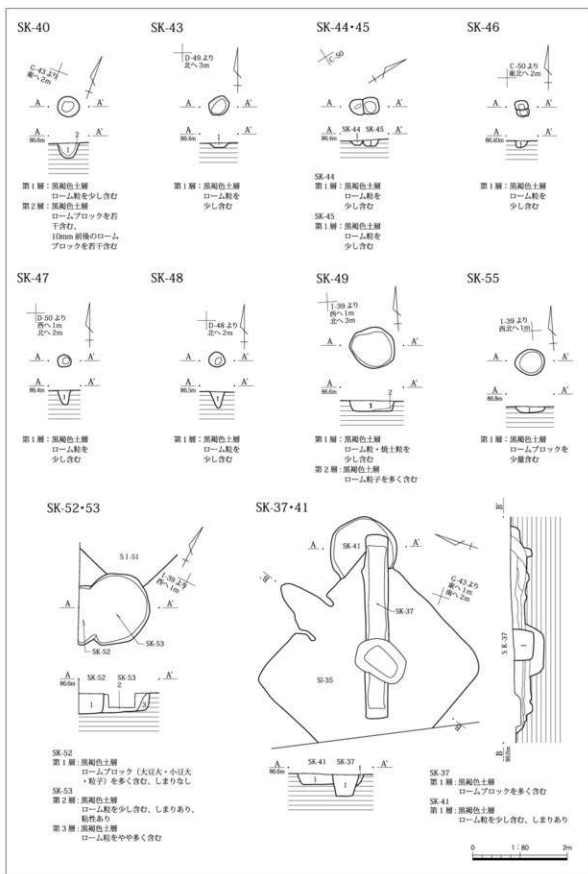
SK-39



第1層：黒褐色土層
ローム粒子・プロ
ックを少し含む。
しまりなし

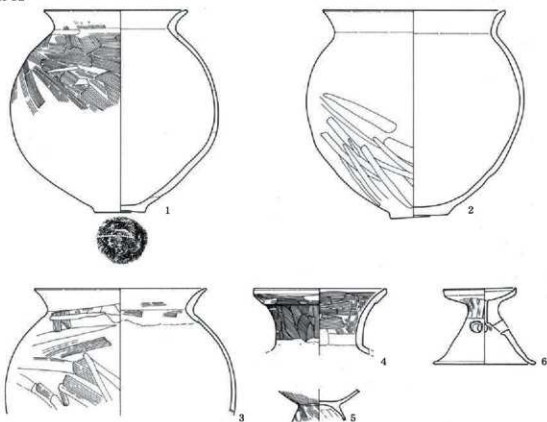
0 1:80 2m

第22図 遺構実測図(14)

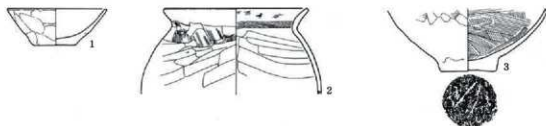


第23図 遺構実測図(15)

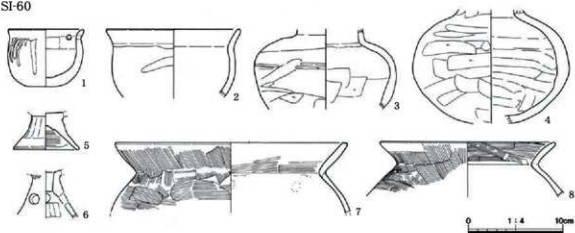
SI-12



SI-21

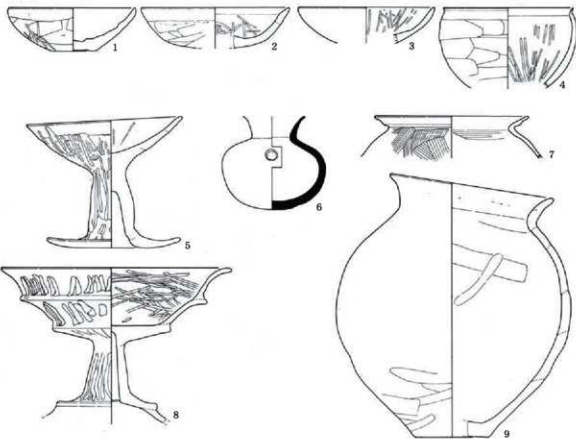


SI-60

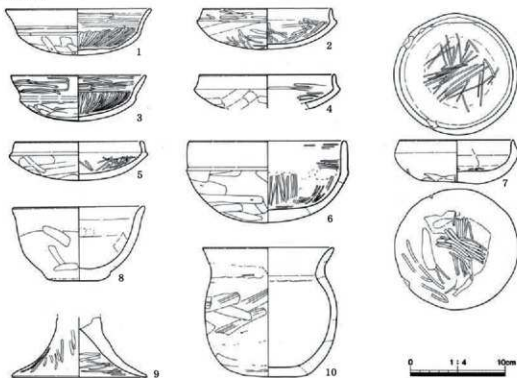


第 24 図 遺物実測図(1)

SI-36

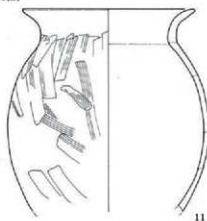


SI-24(1)

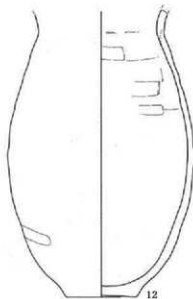


第 25 図 遺物実測図(2)

SI-24(2)



11



12

SI-30



1

SI-51



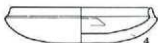
1



2



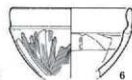
3



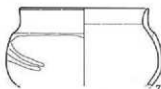
4



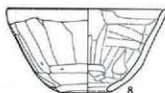
5



6



7



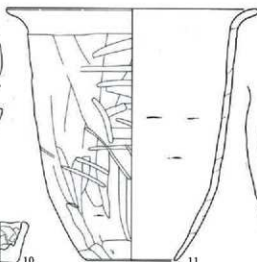
8



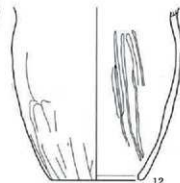
9



10



11



12

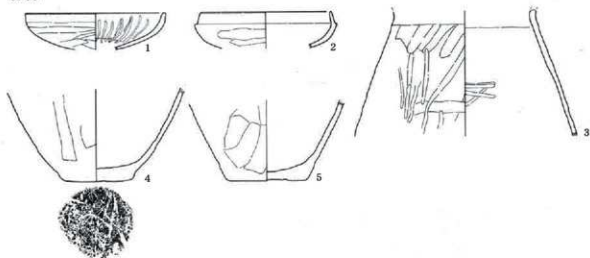
0 1:4 10cm

第 26 図 遺物実測図 (3)

SI-56



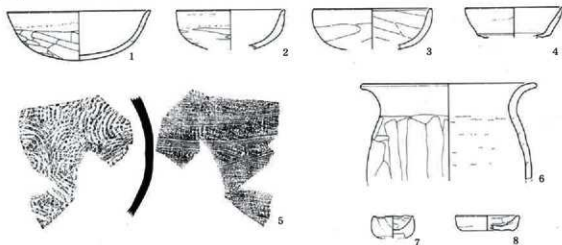
SI-59



SI-7



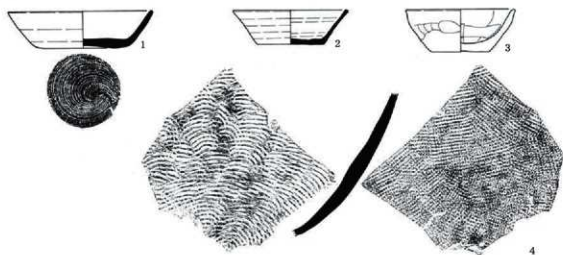
SI-10



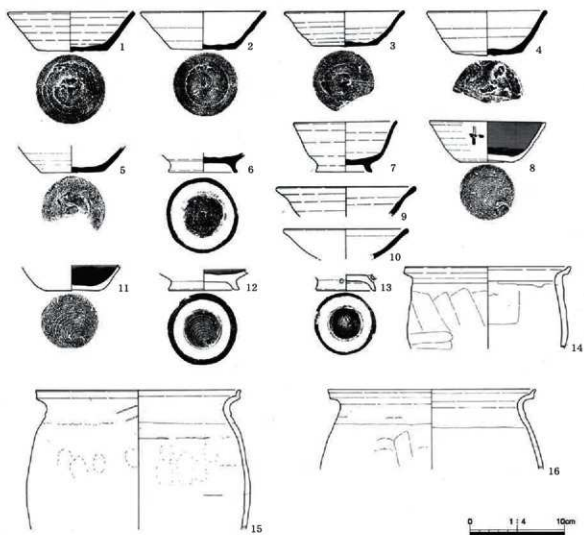
0 1:4 10cm

第 27 图 遺物実測図 (4)

SI-2

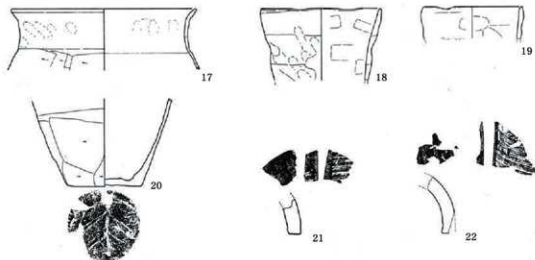


SI-57(1)

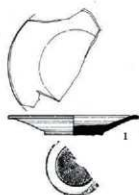


第28図 遺物実測図(5)

SI-57(2)



SI-35



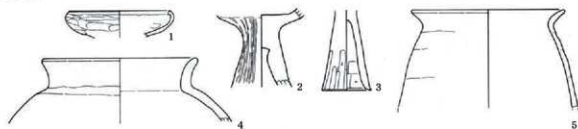
SK-31



SK-25



SD-29

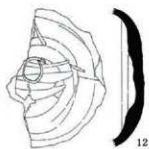
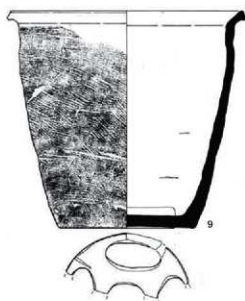
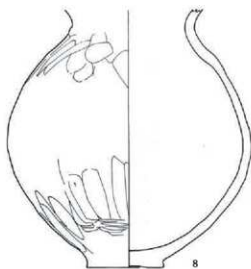
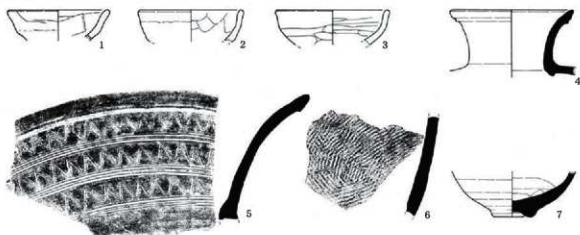


SE-11



第 29 図 遺物実測図 (6)

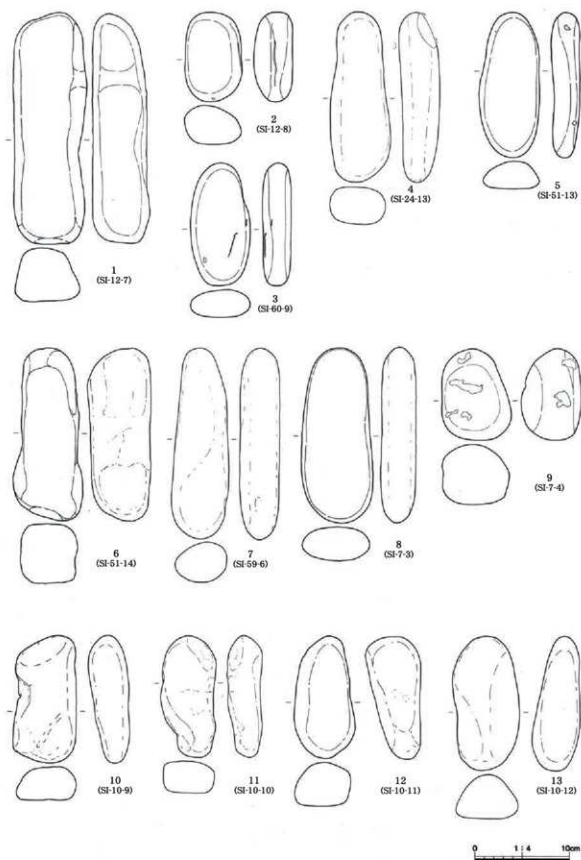
SE-1



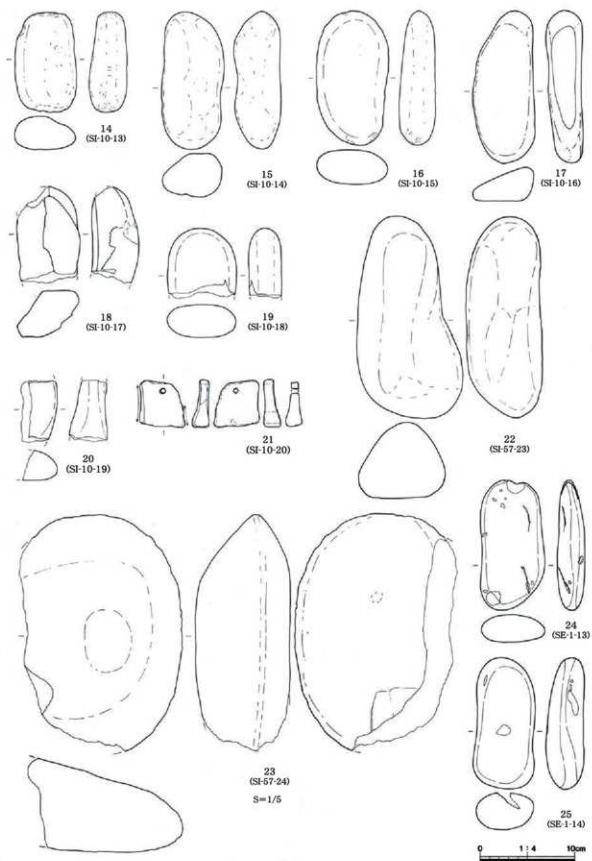
SX-28



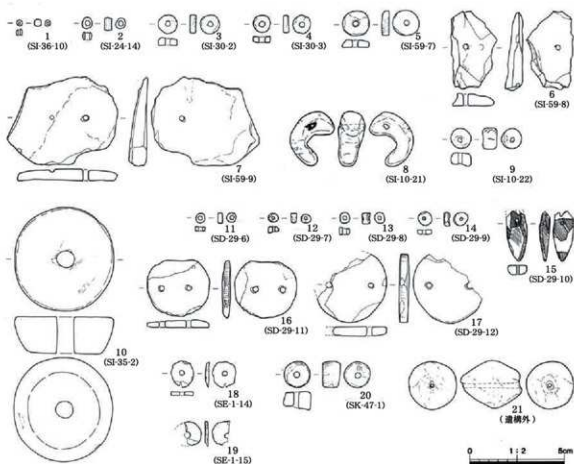
第 30 图 遺物実測図(7)



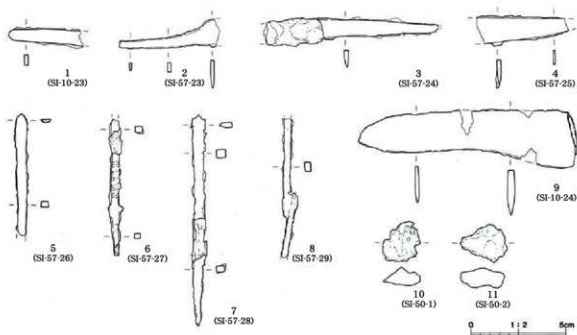
第 31 図 遺物実測図 (8)



第 32 图 遺物実測図 (9)



第33図 遺物実測図(10)



第34図 遺物実測図(11)

第2表 出土遺物観察表 (1)

SI-12

No.	発掘 位置	計測値 (cm)	色調 (内/外)	胎土	焼成	焼存率	形状		特徴	出土位置	目録	備考
							内面	外面				
1	土師器 壺	口 18.1 底 5.4 高 21.4	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒多量、ガラス質 粒子数豊富	良好	ほぼ完全。	口	コナナデ	縦毛目→コナナデ	内面・外面にスリ状痕。	溝上3m	No.3
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	縦毛目			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
2	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒多量、ガラス質 粒子数豊富	良好	ほぼ完全。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。	溝面直上	No.8
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
3	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒少量、ガラス質 粒子数豊富	良好	口縁部一部割上 半焼付。	口	コナナデ	縦毛目	内面・外面にスリ状痕。 内面・外面に縦線痕。	溝面直上	No.2,4
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	縦毛目			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	縦毛目			
4	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒	良好	口縁部焼付。	口	コナナデ	縦毛目→コナナデ	内面・外面にスリ状痕。	溝上7m	SI-15 No.7
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	縦毛目			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	縦毛目			
5	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	白色砂子、ガラス質 粒子数豊富	良好	口縁部焼付。	口	コナナデ	縦毛目	内面・外面にスリ状痕。	溝上3m	SI-15 No.8
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	縦毛目			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	縦毛目			
6	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒少量、ガラス質 粒子数豊富	良好	口縁部一部欠損。	口	コナナデ	縦毛目	内面・外面にスリ状痕。	溝上3m	No.1
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	縦毛目			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	縦毛目			

SI-21

No.	発掘 位置	計測値 (cm)	色調 (内/外)	胎土	焼成	焼存率	形状		特徴	出土位置	目録	備考
							内面	外面				
1	土師器 壺	口 20.5 底 5.4 高 23.9	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒、白色砂子大 粒	良好	ほぼ完全。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝面直上	No.1
		口 20.5 底 5.4 高 23.9					体	コナナデ	コナナデ			
		口 20.5 底 5.4 高 23.9					底	コナナデ	コナナデ			
2	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	白色砂子少量	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝面直上	SI-21 No.3, 4, 6
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
3	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	白色砂子・褐色砂 子大粒、ガラス質 粒子数豊富	良好	口縁部一部欠損。 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝面直上	No.2
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			

SI-60

No.	発掘 位置	計測値 (cm)	色調 (内/外)	胎土	焼成	焼存率	形状		特徴	出土位置	目録	備考
							内面	外面				
1	土師器 壺	口 21.8 底 6.2 高 26.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子、褐色砂 子	良好	ほぼ完全。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上24m	No.8
		口 21.8 底 6.2 高 26.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 21.8 底 6.2 高 26.1					底	コナナデ	コナナデ			
2	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子少量	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
3	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子・褐色砂 子少量、褐色大粒 砂子	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
4	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子少量、白 色砂子数豊富	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
5	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒、褐色砂子、 褐色砂子	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
6	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子少量、白 色砂子数豊富	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
7	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子少量、白 色砂子数豊富	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			
8	土師器 壺	口 18.3 底 5.1 高 21.1	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子少量、白 色砂子数豊富	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.1 高 21.1					底	コナナデ	コナナデ			

SI-36

No.	発掘 位置	計測値 (cm)	色調 (内/外)	胎土	焼成	焼存率	形状		特徴	出土位置	目録	備考
							内面	外面				
1	土師器 壺	口 18.3 底 5.4 高 21.4	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒、褐色砂子	良好	ほぼ完全。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					底	コナナデ	コナナデ			
2	土師器 壺	口 18.3 底 5.4 高 21.4	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	砂粒	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					底	コナナデ	コナナデ			
3	土師器 壺	口 18.3 底 5.4 高 21.4	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子・褐色砂 子少量、褐色大粒 砂子	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					体	コナナデ	コナナデ			
		口 18.3 底 5.4 高 21.4					底	コナナデ	コナナデ			
4	土師器 壺	口 18.3 底 5.4 高 21.4	10YR5/4 土師器 10YR5/4 土師器	褐色砂子・褐色砂 子少量、褐色大粒 砂子	良好	口縁部一部割上 一部焼付。	口	コナナデ	コナナデ	内面・外面にスリ状痕。 縦線痕。	溝上2m	No.12

第4表 出土遺物觀察表(3)

9	主観的	(1) 18.0 観 16.0	1970/6 1970/6	学生数、ガムを 取り巻く	長良	5/4 南島、 体 10 観 ヘナナ	コナナ ヘナナ	口讀みの内一語 誤訳あり、後座下平 読みあり、無意味、	東直江	No.30
10	主観的	(1) 16.0 観 8.0	1970/6 1970/6	砂粒集	長良	口讀みの2文誤、 体 17 観 ヘナナ	コナナ ヘナナ	外訳誤訳あり、	東直江	No.33,30
10	主観的	(1) 15.0 観 6.0	1970/5/3 1970/5/6	砂粒・ガラス質砂子 集	長良	口讀みの1・体誤 17/19-座下/4 体 観 ヘナナ	コナナ ヘナナ		東直江	No.31
11	主観的	(1) 28.0 観 15.0	1970/7/4 1970/7/4	砂粒少量、ガラス 質少量、ガムを 取り巻く、歯の 砂子	長良	5/4 南島、 体 10 観 コナナ	コナナ コナナ	口讀みの誤訳あり、 誤訳下平読み誤訳 あり、無意味、	東直江	No.9,12,13 14,15,17,20 22,30,46,48
12	主観的	(1) 19.0 観 10.0	1970/7/4 1970/7/4	白色砂子少量	長良	口讀みの1-体誤/1 体 17 観 コナナ	コナナ ヘナナ	体誤外訳誤訳あり、	東直江	No.23,25

SI-56

No.	樹種 品種	計測値 (cm)	色調 (内/外)	樹土	構成	腐敗率	腐敗		特徴	出土位置	直径	備考
							内面	外面				
1	土桑樹	口 13.7 底 =	10/90:3 濃茶	白色粘土・ガラス質 粒子多量	白糠粒3%、体面 腐敗ほぼ全消。	口 体	ナブ・ヘアヒギキ ヘアヒギキ ナブ	ナブ・ヘアヒギキ ヘアヒギキ ナブ	東上2号	No.34		
	深 4.9	1.0/1										
	芽											

SI-59

No.	種類 品名	材質(mm)	色調 (内/外)	動土	動成	残存率	使用		特徴	出土位置	注記	備考
							内面	外面				
1	土師器	口 (44.0)	BFY03 黒色(内)	黒色色子、透明色子	良好	1/3残存。	体	ホナナヅ	ヨコナヅ	東海直上	No.23	
	底	黒 (4.6)	2.000/4 L2.0-0.0			体	ヘナナヅ	ヘナナヅ				
2	土師器	口 (12.0)	BFY03 黒色(内)	新緑、白色色子	良好	1/4残存。	体	ホナナヅ	ヨコナヅ	新緑内並置品あり。	腰上ノ	5/19
	底	黒 (9.3)	BFY03 黒色(内)			体	ヘナナヅ	ヘナナヅ				
3	土師器	口 (10.0)	BFY03 L2.0-0.0	小緑	良好	胴部上半1/7 残存。	体	ヘナナヅ	ヘナナヅ	東海直上	No.30	
	底	黒 (13.0)	BFY03 L2.0-0.0			体						
4	土師器	口 (10.0)	BFY03 L2.0-0.0	小緑	良好	胴下平口ノ底面 残存。	体			東海直上	No.30	
	底	黒 (7.3)	BFY03 L2.0-0.0			体		ヘナナヅ				
5	土師器	口 (10.0)	BFY03 L2.0-0.0	新緑、ダマ質粘土	良好	胴下平一直線 残存。	体			東上13cm	No.22	
	底	黒 (5.4)	BFY03 L2.0-0.0			体		ヘナナヅ				

SI-07

No.	種類	距離 [cm]	色調 (L*/a*/b*)	粒上	構成	発芽率	発色		特徴	出上位置	直径	備考
							内面	外面				
1	土曜餅	11.72 [0.27]	99.92/0.00 黄褐色	黄色粒上	良粒	1/2厚切。	11	コナツザ	コナツザ	内面・外面に緑色調 が上付。	肉上 6mm	No.1
	餅	11.81 [0.25]	99.93/0.00 黄	黄色粒上			11 体 ヘナツザ	コナツザ ヘナツザ				
2	土曜餅	11.81 [0.61]	99.93/0.00 黄褐色	黄色粒上、厚切大顆 粒上	良粒	1/2厚切。	11	コナツザ	コナツザ	内外面共に上付。 濃緑色調。	肉面肉上	No.2
	餅	11.81 [0.61]	99.93/0.00 黄褐色	黄色粒上			11 体 ヘナツザ	コナツザ ヘナツザ				

SI-10

No.	種類	距離 (m)	色調	肌上	顔色	分布	部位	特徴	土壌表	分布	備考
							内面	外面			
1	土層面	□ (13.2)	9.905/6 暗褐色、赤色砂	砂粒少量	良好	約1/4程度、 L 体	コナナデ	コナナデ	口縁部内外面に、 体部内外面に散在。 縁合痕顕著。	底質部 表層	私底下
	面	底 (3.5)	9.906/6 暗褐色			底	ナデ	ヘウケツウ ナデ			
2	土層面	□ (11.4)	7.900/3 Cに赤味	赤色砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	コナナデ		距離270-1	P1
	面	底 (4.2)	7.900/4 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			
3	土層面	□ (12.8)	7.900/4 Cに赤味	砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	ナデ	口縁部内面に露出 若干面。	底質部	S2-10
	面	底 (4.0)	7.900/4 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			
4	土層面	□ (13.3)	7.900/4 Cに赤味	砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	ナデ	口縁部内面に露出 若干面。	底質部 表層	S2-10
	面	底 (3.1)	7.900/4 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			
5	土層面	□ (13.6)	9.906/6 暗褐色	砂粒少量、ゴツゴツ 砂粒数多	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	コナナデ		底質部	No.8
	面	底 (39.3)	9.906/6 暗褐色			底	ヘウケツウ ナデ	ナデ			
6	土層面	□ (4.8)	7.900/3 Cに赤味	砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	ナデ		底質部 表層	私底下
	面	底 (2.4)	7.900/3 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			
7	土層面	□ (8.6)	7.900/4 Cに赤味	砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	ナデ		底質部 表層	私底下
	面	底 (2.4)	7.900/4 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			
8	土層面	□ (8.6)	7.900/4 Cに赤味	砂粒少量	良好	口縁部一帯面 L 体	コナナデ	ナデ		底質部 表層	私底下
	面	底 (2.4)	7.900/4 Cに赤味			底	ナデ	ナデ			

SI-02

[illegible]

第5表 出土遺物観察表(4)

土層番号	位置	計測値(cm)	色調 (内/外)	形状・色調・数量・形状	出土位置	目録	備考
3	底	10.0	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	

SI-57

No.	種類	計測値(cm)	色調 (内/外)	形状・色調・数量・形状	出土位置	目録	備考
1	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
2	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
3	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
4	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
5	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
6	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
7	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
8	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
9	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
10	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
11	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
12	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
13	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
14	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
15	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
16	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
17	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
18	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
19	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	

SI-35

No.	種類	計測値(cm)	色調 (内/外)	形状・色調・数量・形状	出土位置	目録	備考
1	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	

SD-29

No.	種類	計測値(cm)	色調 (内/外)	形状・色調・数量・形状	出土位置	目録	備考
1	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
2	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
3	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	
4	土層	底	1.0/1.0	褐色・赤褐色・赤褐色	底面・一部欠損	底面・一部欠損	

第6表 出土遺物観察表 (5)

No.	種類	計測値 (cm)	色調 (N/uv)	胎土	構成	残存率	注目	内面	外面	特徴	出土位置	注記	備考
5	土師器	口 18.2 底 18.3	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、ガラス片多量	良好	1/3残存	口縁一部欠損	口 底	口 底	口 底	床土14cm	No.9	

SX-28

No.	種類	計測値 (cm)	色調 (N/uv)	胎土	構成	残存率	注目	内面	外面	特徴	出土位置	注記	備考
1	土師器	口 14.8 底 3.9	19YR5/4 赤褐色 19YR5/4 に白く焼	黒色胎土微量、透 明粘土少量	良好	1/3残存	口縁部1/4一部 欠損	口 底	口 底	口 底	床土16cm	No.2	

SE-11

No.	種類	計測値 (cm)	色調 (N/uv)	胎土	構成	残存率	注目	内面	外面	特徴	出土位置	注記	備考
1	土師器	口 16.6 底 14.1	19YR5/4 に白く焼 色	黒色胎土	良好	1/3残存	口縁部一部欠 損	口 底	口 底	口 底	床土16cm	No.11	

SE-01

No.	種類	計測値 (cm)	色調 (N/uv)	胎土	構成	残存率	注目	内面	外面	特徴	出土位置	注記	備考
1	土師器	口 15.8 底 3.3	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒	良好	口縁部1/3残存	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
2	土師器	口 11.2 底 3.4	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、赤色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
3	土師器	口 12.1 底 3.7	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
4	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
5	土師器	口 16.8 底 13.6	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部1/3残存	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
6	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
7	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
8	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
9	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
10	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
11	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
12	土師器	口 11.3 底 3.1	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、白色胎土	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底

SK-25

No.	種類	計測値 (cm)	色調 (N/uv)	胎土	構成	残存率	注目	内面	外面	特徴	出土位置	注記	備考
1	土師器	口 14 底 4.8	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、赤褐色	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底
2	土師器	口 12.4 底 6.2	19YR5/4 に白く焼 色	砂粒、赤褐色	良好	口縁部一部 欠損	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底	口 底

破片観察表

番号	最大長	最大幅	最大厚	重量 (g)	特徴等	出土位置	残存
1 (SI-12-7)	25.00	7.70	6.00	1,785.00	破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
2 (SI-12-8)	9.40	6.00	4.10	364.72	加工面、破片、破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
3 (SI-40-9)	12.95	6.30	3.05	282.64	面下部破片に打痕が見られる。	床面直上	完存
4 (SI-24-13)	18.00	6.30	4.00	717.50	破片は、中央に破片が見られる。加工・破片は土師器の口縁部に見られる。	約断片	一部欠損
5 (SI-51-13)	15.30	6.40	3.00	440.76	破片は、中央に破片が見られる。加工・破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
6 (SI-51-14)	18.00	7.30	6.60	1,265.00	破片は、土師器の口縁部に見られる。	床土14cm	完存
7 (SI-59-6)	20.20	6.00	4.20	772.50	破片は、破片は土師器の口縁部に見られる。加工は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
8 (SI-7-3)	18.50	7.60	3.70	812.80	破片は、中央に破片が見られる。	床土13cm	完存
9 (SI-7-4)	9.65	7.40	6.35	630.06	面左側・下部に破片が見られる。	床土15cm	完存
10 (SI-10-9)	12.90	6.70	4.30	549.46	破片は、加工・破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
11 (SI-10-10)	12.90	6.90	3.70	356.41	破片は、加工・破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
12 (SI-10-11)	13.00	6.30	3.90	549.43	面下部破片に打痕が見られる。	床土4cm	完存
13 (SI-10-12)	14.20	7.10	5.10	644.78	破片は、加工・破片は土師器の口縁部に見られる。	床面直上	完存
14 (SI-10-13)	10.60	6.50	3.90	358.59	面下部破片に打痕が見られる。	床面直上	完存

第7表 出土遺物観察表(6)

15 (SI-10-14)	14.50	6.60	4.90	638.16	礫物石、図上側端部に打痕が見られる。加工・被熱痕は見られない。	床面直上	定存
16 (SI-10-15)	14.20	7.80	3.80	630.79	礫物石、加工・被熱痕は見られない。	床面直上	定存
17 (SI-10-16)	16.10	6.50	3.90	549.66	礫物石、加工・被熱痕は見られない。	床+4cm	定存
18 (SI-10-17)	[10.20]	[6.70]	[5.00]	294.57	石鼓状、平ら面に微塵が見られる。	床面直上	破片
19 (SI-10-18)	[7.40]	[7.30]	[3.50]	292.30	礫物石か。加工・被熱痕は見られない。	床+5cm	1/2残存
20 (SI-10-19)	[8.50]	[3.90]	[4.00]	117.83	礫物石か。平ら面に微塵が見られる。	床面直上	一部破片
22 (SI-57-23)	21.00	10.50	7.90	389.00	礫物石が見られる。	床+5cm	定存
23 (SI-57-24)	[33.50]	[21.50]	[12.50]	7400.00	表面を加工し、一面に凹みが見られる。	床+7cm	約3/4残存
24 (SI-1-13)	13.70	6.70	2.90	376.08	礫物石、被熱痕と図上側に加工痕が見られる。	第3層	定存
25 (SI-1-14)	13.90	6.40	4.00	543.59	礫物石、図上側端部に打痕が見られる。	第3層	定存

石製品(砥石)観察表

番 号	大きさ (cm)			重量 (g)	出土位置	備考
	最大長	最小幅	最大厚			
21 (SI-10-20)	5.00	4.90	1.80	0.40	43.47	床面直上 砥面は前面、端部折損、孔有り

石製品(玉・白玉・石製模造品)観察表

番 号	大きさ (mm)				重量 (g)	出土位置	備 考
	最大長	最小径	最大厚	最大孔径	最小孔径		
1 (SI-30-10)	3.85	3.64	3.40	1.47	1.35	0.07	床+20cm
2 (SI-24-14)	6.58	3.98	3.90	2.73	2.67	0.19	P床面直上
3 (SI-30-2)	10.63	10.61	3.96	2.68	2.44	0.73	床面近く
4 (SI-30-3)	10.9	9.97	3.64	2.97	2.49	0.61	床面近く
5 (SI-59-7)	13.06	12.52	3.98	3.85	3.32	0.94	覆土中
6 (SI-59-8)	41.08	24.00	7.80	2.90	2.50	6.40	床面直上(10cm)
7 (SI-59-9)	47.00	58.00	8.60	3.58	2.90	9.94	床面直上(5cm)
9 (SI-10-22)	11.98	11.69	7.28	2.20	1.91	1.15	床面直上(15cm)
11 (SI-29-6)	5.10	8.09	2.64	1.73	1.64	0.11	床面直上
12 (SI-29-7)	6.09	5.93	3.32	1.61	1.59	0.17	床面直上
13 (SI-29-8)	5.86	6.66	4.21	1.85	1.72	0.18	床面直上
14 (SI-29-9)	7.16	7.00	3.42	1.81	1.41	0.24	床面直上
15 (SI-29-10)	26.9	16.99	8.12	2.19	1.36	1.48	床面直上
16 (SI-29-11)	32.94	20.66	4.22	3.23	2.35	6.94	石製模造品
17 (SI-29-12)	[38.00]	-	[4.93]	[3.50]	[2.38]	9.80	床面直上
18 (SI-1-14)	14.04	12.42	2.18	2.73	2.71	0.47	第3層下層
19 (SI-1-15)	[12.80]	-	1.56	[2.68]	-	0.23	第3層下層
20 (SI-47-1)	12.68	13.37	8.49	3.44	3.05	2.68	覆土中

石製品(紡錘車)観察表

番 号	大きさ (mm)			重量 (g)	出土位置	備考
	上面径	下面径	最大厚			
10 (SI-35-2)	55.00	41.00	19.00	9.00	74.24	床+7cm

石製品(勾玉)観察表

番 号	大きさ (mm)				重量 (g)	出土位置	備考
	最大長	最大幅	最大孔径	最小孔径			
8 (SI-10-21)	2.90	1.40	0.40	0.20	5.59	床+20cm	片側から穿孔・背側に微塵・裏側に指痕

金属製品(刀子)観察表

番 号	大きさ (cm)				重量 (g)	技法・形態等	出土位置・残存
	長さ	刀幅	刀厚	茎厚			
1 (SI-10-23)	[3.90]	-	-	5.00	9.20	2.97	有微塵は見られない
2 (SI-57-23)	[5.30]	1.30	0.20	0.52	0.29	2.41	有微塵は見られない
3 (SI-57-24)	[9.30]	1.28	0.64	-	-	11.36	有微塵は見られる
4 (SI-57-25)	[4.90]	1.40	0.27	-	-	3.15	片刀。有微塵は無し

金属製品(鉄鏝)観察表

番 号	大きさ (cm)		重量 (g)	技法・形態等	出土位置・残存
	長さ	幅			
5 (SI-57-26)	[6.4]	-	2.79	片丸磨り。	床面直上
6 (SI-57-27)	[7.2]	3.29	-	両方に線が見られる。図上と裏に横方向の線跡または有微塵が残る。	床面直上
7 (SI-57-28)	[11.2]	7.05	-	形状では線は確認できない。5と図跡の片丸磨りの可能性が高い。	床+3cm

金属製品(釘)観察表

番 号	大きさ (cm)			重量 (g)	技法・形態等	出土位置・残存
	長さ	幅	厚さ			
8 (SI-57-29)	[7.3]	0.53	0.44	4.37	図面下方に線くなるので釘の可能性が高い	覆土中・両端欠損

金属製品(鎌)観察表

番 号	法量 (cm)					重量 (g)	技法・形態等	出土位置・残存
	長さ	最大幅	最小幅	最大厚	最小厚			
9 (SI-10-24)	11.60	3.00	2.07	0.35	0.33	21.13	基部全体を茎に対して直角に折り返す	P-8南東床面直上

鉄針観察表

番 号	大きさ (cm)			重量 (g)	技法・形態等	出土位置・残存
	最大径	最小径	厚さ			
10 (SI-59-1)	2.39	1.88	0.98	3.62	-	覆土中
11 (SI-59-2)	2.48	2.03	1.03	5.61	-	覆土中

附 編

第1節 立ち会い調査

平成21年度、緊急地方道路事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区改良事業に伴う西刑部西原遺跡の発掘調査については、年度当初の5月～7月の3ヶ月間、南から調査Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区とした約930mについて実施し、古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡18軒の他、土坑・円形周溝遺構・井戸跡及び溝跡等が多数発見され、多大な成果が得られている。本来ならばこの発掘調査において、調査Ⅰ区の南側延長方向のおよそ18m、また調査Ⅰ区とⅡ区に挟まれた43m部分についても調査の対象範囲とすべきであったが、地権者の同意が得られないこともあり、工事着手時に県土整備部と県教育委員会による立ち会い調査を行うこととして合意が整っていた。また、県教育委員会と埋蔵文化財センターでは、この立ち会い箇所より発見される遺構や遺物について、年度内刊行の西刑部西原遺跡発掘調査報告書内に掲載することが最も有効であると判断しており、日時的に早急な立ち会い調査を望んでいた。このような中、年度末近くではあったものの立ち会い調査が行われ、時間的に厳しい中、何とか附編として調査報告書に掲載できる運びとなった。

第1次立ち会い調査（A区）

〔日 時〕 平成22年1月21日

〔調査者〕 県土整備部宇都宮土木事務所道路整備第一課・県教育委員会文化財課・とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

〔協力〕 大幹建設株式会社（工事施工者）

〔経過〕 南側よりバックホーにて表土掘削。現表土より約80cmは盛土、さらに80cmで遺構確認面。遺構及び遺物の出土は皆無。調査地は店舗敷地内のため車両の出入りが多く、A区北側については実質的に掘削が困難。A区及びⅠ区南側の状況から遺構が存在する可能性は無いと判断し調査終了。

第2次立ち会い調査（B・C区）

〔日 時〕 平成22年2月23日・24日

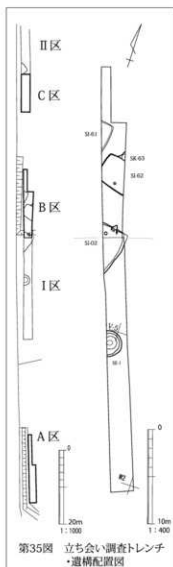
〔調査者〕 県土整備部宇都宮土木事務所道路整備第一課・県教育委員会文化財課・とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

〔協力〕 大幹建設株式会社（工事施工者）

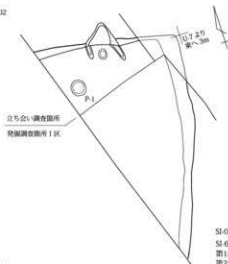
〔経過〕 C区、B区の順で北側からバックホーにて表土掘削。C区では遺構及び遺物の出土が皆無。B区では新たに発見された竪穴住居跡2軒と土坑1基、SI-02の残りを調査。C区とB区間は、住宅兼店舗敷地内であり車両の出入りが頻繁。C区及びB区内北側の状況から遺構無しと判断。

以下に発見された遺構と遺物について簡便に記載する。

SI-02は従前の調査にて、調査Ⅰ区の北辺隅より発見された住居跡である。今回の調査にて北東コーナーから延びる北壁の一部と、これに付設されたカマドが出土した。当住居跡は確認面から80cmの深さを測るため、カマドの

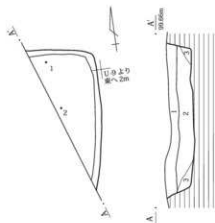


SI-02



立ち会い調査箇所
発掘調査箇所1区

SI-61



SI-02 土層は第15層 SI-02砂層

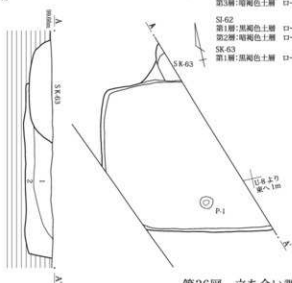
SI-61

第1層:黒褐色土層 全体的にローム粒子を含む。しまりに富む

第2層:黒褐色土層 第1層と同質で下位にローム粒子・炭化材を多く含む。また焼土粒を少量混入。しまりに富む

第3層:暗褐色土層 ローム粒・ローム粒子を多量に混入。しまりに富む

SI-62



SI-62

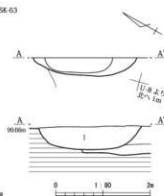
第1層:黒褐色土層 ローム粒子を多量に含む。焼土粒を少量混入。全体的にローム粒子を含む。しまりに富む

第2層:暗褐色土層 ローム粒・ローム粒子を多量に含む。焼土粒・炭化材を少量混入(埋め戻し)しまりに富む

SK-63

第1層:黒褐色土層 ローム粒子を多量に含む。焼土粒を少量混入。しまりに富む

SK-63



第36図 立ち会い調査遺構実測図



1 (SI-02-5)



2 (SI-61-1)



4 (SI-62-1)



3 (SI-61-2)



第37図 立ち会い調査遺物実測図

第8表 立ち会い調査出土遺物観察表

No.	種類 図録	計測値 (cm)	色調 (内/外)	出土 状況	備考	採取			特徴	出土位置	図記	備考
						内面	外面	断面				
1 (SI-02 5)	土師器 甕	口 22.7 底 16.8 高 6.9	5/6 明赤褐色	砂粒少量、ガラス 質粒子微量	良好	口縁部1/2残存	口 ヨコナデ ナデ ヘラミギキ 底	ヨコナデ ヨコナデ ナデ ヘラミギキ ヘラミギキ	外面保存状態良好	甕土中	SI-2フタ土	
2 (SI-61 1)	土師器 杯	口 (13.6) 底 5.7 高 7.9	6/6 暗赤褐色	赤色粒子微量 ガラス質粒子微量	良好	口縁部～底部 1/3欠損	口 ヨコナデ ナデ ヘラミギキ 底	ヨコナデ ナデ ナデ ヘラミギキ ヘラミギキ	外面保存状態良好	甕土中	SI-61立 No.1	
3 (SI-61 2)	土師器 甕	口 (18.6) 底 12.1 高 6.5	6/6 暗赤褐色	砂粒少量、ガラス 質粒子少量	良好	胴部1/2 底部欠損	口 ヨコナデ ナデ ヘラミギキ 底	ヨコナデ ナデ ナデ ヘラミギキ ヘラミギキ	外面保存状態良好	甕土中	SI-61立 No.2	
4 (SI-62 1)	土師器 甕	口 14.3 底 3.8 高 7.5	7.5YR6/6 暗赤褐色	砂粒微量、ガラス 質粒子微量	良好	口縁部～底部 1/6残存	口 ヨコナデ ナデ ヘラミギキ 底	ヨコナデ ナデ ナデ ヘラミギキ ヘラミギキ	外面保存状態良好	甕土中	SI-62立	

遺存状態も極めて良い。発見当初は東西方向に主軸を持つ比較的大型で横長の住居跡を想定していたが、カマドを北壁の中心と考えると、逆に縦長の形状が想定される。カマド付近より甕の口縁部が、またその南にはP1が出土した。

SI-61は北東コーナー付近の出土であったため、全体の形状や規模については不明である。床面は比較的硬化し、貼り床は認められない。覆土は、壁際にローム粒子を含む暗褐色土の3層が堆積する典型的な自然埋没を示す。床面よりほぼ完存する坏と、底部付近と胴部の1/2を欠損する甕が出土した。

SI-62は全長の約1/2が出土し、長軸4m、短軸3.2mのやや横長の住居跡と思われる。カマドは出土していないが、後出のSK-63に削平された可能性がある。南壁中央部付近には出入口に関係するP1がある。

SK-63は長軸1.2mを測る楕円形の土坑と思われ、断面形は舟形状を呈す。出土遺物は無いが、覆土の切り合いから9世紀代に所属するSI-62よりは後出する。

第2節 砂田東遺跡立ち会い調査（第38図）

今回の発掘の原因となった一般県道二宮宇都宮線（砂田街道）の道路拡幅工事は、調査箇所の北約400mに位置する砂田町交差点から歩道設置工事が行われている。工事に伴い栃木県教育委員会文化財課により立ち会い調査が3箇所で行われた。詳細は下記のとおりである。

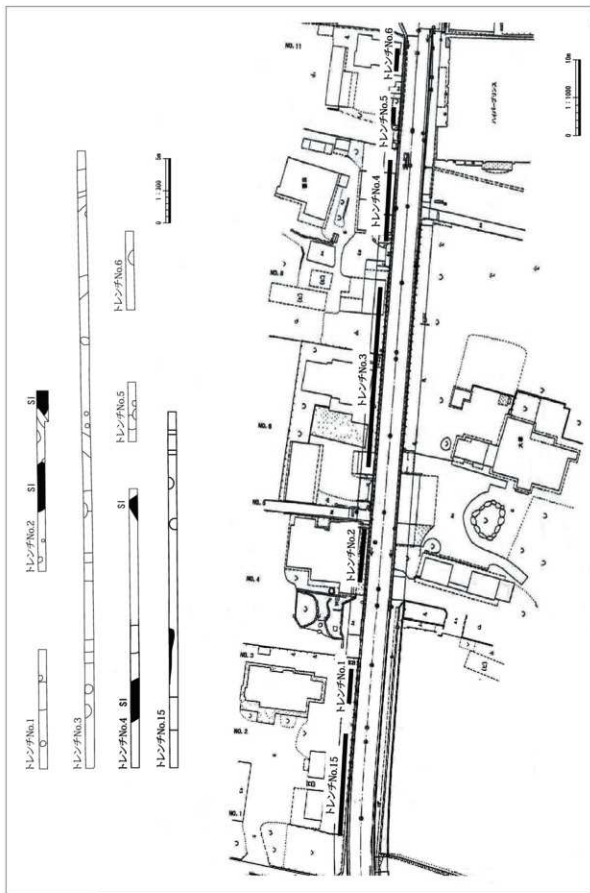
①平成19年10月3・4日：道路西側に幅1mのトレンチを6箇所（第38図トレンチNo.1～No.6）設定し、遺構の有無を確認した。その結果、遺構は古墳時代後期の竪穴住居跡5軒及び時期不明の土坑・ピット27基・溝6条を確認した。遺物は土師器土器片が数点出土したが、図示できるものは無かった。工事の行われている道路東側については、露出しているローム面を精査したが、遺構は確認出来なかった。

②平成21年1月29日：トレンチNo.15を設定し、遺構の有無を確認した。トレンチは幅1m、長さ26m、深さ0.7mで、竪穴住居跡1軒、溝3条、土坑2基を確認した。遺物は土器片が数点出土したが、図示できるものは無かった。

③平成21年10月9日：平成21年1月29日に立ち会い調査したトレンチNo.15の南約35mの地点に幅1.0m・長さ7.0m・深さ1.8mのトレンチを設定して遺構の有無を確認し、溝1条、土坑2基を確認した。

3箇所ともに調査の結果、遺構確認面が工事による掘削面より下位にあることから、工事を実施しても差し支えないと判断し、確認状況についての図面と写真による記録を行った後、埋戻しを行った。

立ち会い調査が行われた範囲は、『栃木県埋蔵文化財地図』や『宇都宮市の遺跡』において埋蔵文化財の包蔵地として登録されていないが、宇都宮環状線建設に伴い砂田町交差点付近を栃木県文化振興事業団が「砂田東遺跡」として昭和63年度～平成2年度に発掘調査を行っている。また、西刑部西原遺跡とは浅い谷を挟んで北側に位置していることから、立ち会い調査の範囲は砂田東遺跡として扱った。このことは、宇都宮市教育委員会も確認している。



第38図 砂田東遺跡立ち会い調査位置図

写 真 图 版



西刑部西原遺跡航空写真（北東から）



西刑部西原遺跡航空写真（北から）



SI-12 セクション・遺物出土状況 (西から)



SI-12 遺物出土状況 (西から)



SI-12 遺物出土状況 (北西から)



SI-12 完掘状況 (西から)



SI-21 セクション・遺物出土状況 (南西から)



SI-60 遺物出土状況 (南から)



SI-60 P-1 セクション (南から)



SI-36 セクション (北西から)



SI-36 遺物出土状況(南から)



SI-36 遺物出土状況(北から)



SI-36 貯蔵穴セクション(西から)



SI-36 貯蔵穴遺物出土状況(東から)



SI-24 セクション(北西から)



SI-24 遺物出土状況(南から)



SI-24 遺物出土状況(西から)



SI-24 貯蔵穴遺物出土状況(南から)



SI-24 P-3 セクション (南から)



SI-24 完掘状況 (南から)



SI-24 貯蔵穴完掘状況 (南から)



SI-24・50・51 完掘状況 (南西から)



SI-30 セクション (南東から)



SI-30 完掘状況 (南から)



SI-30 完掘状況 (南から)



SI-30 カマドセクション (東から)



SI-30 カマド完掘状況 (南から)



SI-51 セクション (東から)



SI-51 遺物出土状況 (南東から)



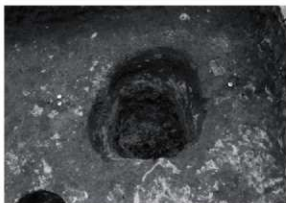
SI-51 遺物出土状況 (北から)



SI-51 貯蔵穴セクション (南から)



SI-51 貯蔵穴遺物出土状況 (南から)



SI-51 貯蔵穴完掘状況 (南から)



SI-51 カマドセクション (東から)



SI-51 カマド完掘状況 (南西から)



SI-51 カマド掘方完掘状況 (南から)



SI-51 完掘状況 (南西から)



SI-57・59 完掘状況 (南西から)



SI-59 カマド完掘状況 (南西から)



SI-59 カマドセクション (南東から)



SI-07 セクション・遺物出土状況 (西から)



SI-07 遺物出土状況 (西から)



SI-10 セクション (西から)



SI-10 セクション (西から)



SI-10 鉄製品等出土状況 (東から)



SI-02 遺物出土状況 (南東から)



SI-02 西壁セクション (東から)



SI-02 遺物出土状況 (東から)



SI-02 完掘状況 (南から)



SI-57・59 セクション (南西から)



SI-57 セクション (南東から)



SI-57 遺物出土状況 (南西から)



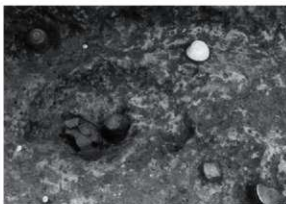
SI-57 遺物出土状況 (南西から)



SI-57 P-2 セクション (東から)



SI-57 P-3 (貯蔵穴) セクション (南から)



SI-57 遺物出土状況 (西から)



SI-57 P-4 完掘状況 (南から)



SI-57 カマドセクション (南東から)



SI-57 カマド完掘状況 (南西から)



SI-57・59 完掘状況 (南西から)



SI-35 セクション (南東から)



SI-35 遺物出土状況 (南西から)



SI-35 遺物出土状況 (南から)



SI-35 カマドセクション (南東から)



SI-35 カマド完掘状況 (南西から)



SI-35 床下土坑完掘状況 (南東から)



SI-35・36・42 セクション (南から)



SI-03 完掘状況 (東から)



SI-03 セクション (東から)



SI-05・SX-04 セクション (西から)



SI-05 完掘状況 (東から)



SI-42 セクション (南東から)



SI-42 完掘状況 (南から)



SI-42 完掘状況 (北東から)



SI-42 カマド完掘状況（北から）



SI-50 セクション（西から）



SD-29 完掘状況（北から）



SD-29 セクション（西から）



SD-29 遺物出土状況（南西から）



SD-29 完掘状況（南西から）



SX-28・SD-29・32 完掘状況（南西から）



SX-28 完掘状況（南から）



SD-29・SX-28 セクション（西から）



SE-11 セクション・完掘状況（西から）



SE-01 遺物出土状況（東から）



SE-01 セクション（東から）



SE-01 完掘状況（東から）



SI-02・SE-01 完掘状況（南東から）



SK-25 セクション（東から）



SX-04（北）セクション（西から）



SX-04 (南) セクション (西から)



SX-04・SI-05 完掘状況 (南から)



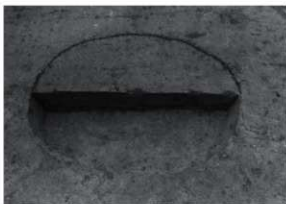
SB-04 完掘状況 (東から)



SB-33 完掘状況 (南東から)



SB-33 完掘状況 (北東から)



SK-09 セクション (西から)



SK-09 完掘状況 (東から)



SK-13 セクション (南から)



SK-13 完掘 (南から)



SK-14 セクション (西から)



SK-14 完掘状況 (西から)



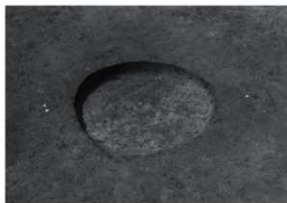
SK-15 セクション (南から)



SK-15 完掘状況 (南から)



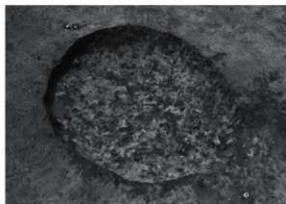
SK-16 セクション (南から)



SK-16 完掘状況 (南から)



SK-17 セクション (南から)



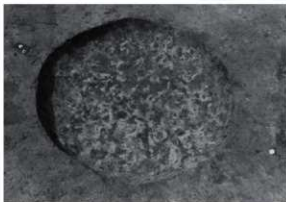
SK-17 完掘状況 (南東から)



SK-18 セクション (東から)



SK-19 セクション (南から)



SK-19 完掘状況 (南から)



SK-20 セクション (東から)



SK-23 セクション (西から)



SK-34・SI-30(P-1) セクション (南から)



SK-34・SI-30(P-1) 完掘状況 (南から)



SK-49 セクション (南から)



SK-49 完掘状況 (西から)



SK-55 セクション (南から)



SK-55 完掘セクション (南から)



西刑部西原遺跡現況 (南から)





SI-36-1



SI-36-2



SI-36-4



SI-36-5



SI-36-6



SI-36-7



SI-36-8



SI-36-9



SI-24-1



SI-24-2



SI-24-3



SI-24-4



SI-24-5



SI-24-6



SI-24-8



SI-24-9



SI-24-10





SI-51-12



SI-56-1



SI-59-1



SI-59-2



SI-59-3



SI-59-4



SI-59-5



SI-07-1



SI-07-2



SI-10-1



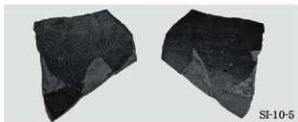
SI-10-2



SI-10-3



SI-10-4



SI-10-5



SI-10-6



SI-10-7



SI-10-8











SE-01-1



SE-01-2



SE-01-3



SE-01-4



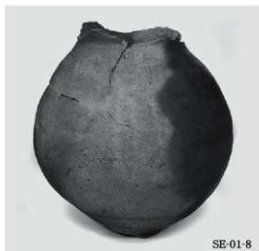
SE-01-5



SE-01-6



SE-01-7



SE-01-8



SE-01-9



SE-01-10



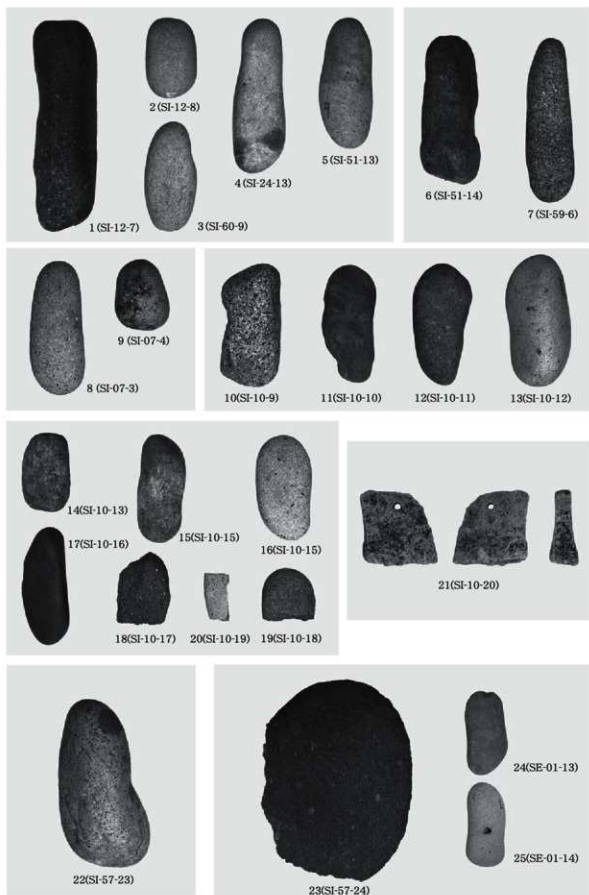
SE-01-11

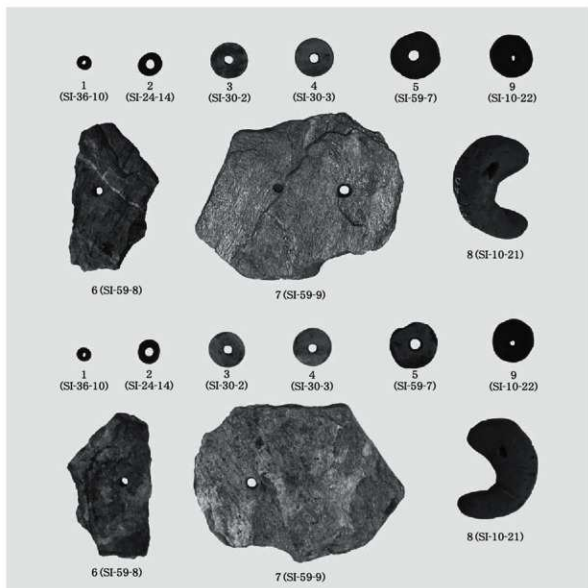


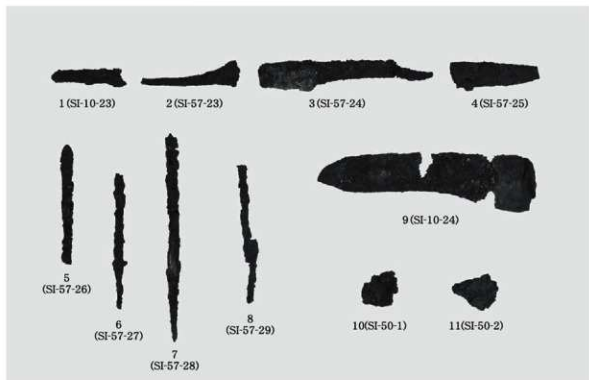
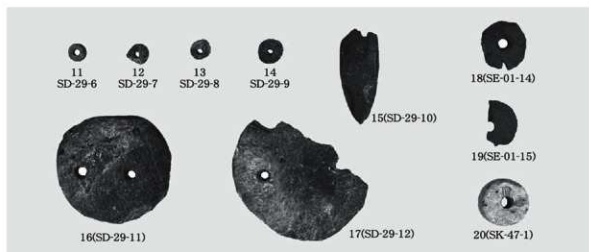
SE-01-12



SX-28-1









西判部西原遺跡航空写真（南東から）



西判部西原遺跡航空写真（西から）

遺構



立ち会い調査箇所調査風景（北から）



SI-61 遺物出土状況（北から）



SI-61 遺物出土状況（東から）



SI-62 完掘状況（西から）

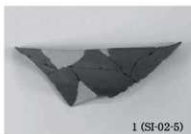
出土遺物



2 (SI-61-1)



4 (SI-62-1)



1 (SI-02-5)



3 (SI-61-2)

報告書抄録

ふりがな	にしおさかべにしはらいせき
書名	西荆部西原遺跡
副書名	緊急地方道路整備事業一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第329集
編集者名	植木茂雄
編集機関	財団法人とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫 474 番地 TEL0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
発行年月日	西暦 2010 年 3 月 26 日 (平成 22 年 3 月 26 日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしおさかべ 西荆部 にしはらいせき 西原遺跡	うつのみやし 宇都宮市 にしおさかべまち 西荆部町	09201	146	36° 29' 51"	139° 54' 50"	20090520 ～ 20090731	925	県道拡幅 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西荆部西原 遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 20 軒 溝跡 2 条 円形周溝遺構 2 基 井戸跡 2 本 掘立柱建物跡 1 棟 土坑 32 基	縄文土器 土師器 須恵器 鉄製品 石製品 (玉類・紡錘車等)	

要約	
----	--

栃木県埋蔵文化財調査報告第 329 集

西 刑 部 西 原 遺 跡

緊急地方道路整備事業
一般県道二宮宇都宮線砂田工区に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行 栃木県教育委員会

宇都宮市埴田 1-1-20

TEL 028-623-3425

財団法人 とちぎ生涯学習文化財団

宇都宮市本町 1-8

TEL 028-643-1011

平成 22 年 3 月 26 日

編集 財団法人とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

TEL 0285-44-8441

印刷 株式会社下野印刷
